

# PC 300 GL (6272/6282)

SA88-5860-00  
(英文原典 : V84H-3403-00)

## オプション・ガイド



# PC 300 GL (6272/6282)

SA88-5860-00  
(英文原典 : V84H-3403-00)

## オプション・ガイド

— お願い —

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず 77ページの付録C、『特記事項』をお読みください。

## 第 1 版 (1997 年 3 月)

原 典： 84H3403  
Personal Computer  
Installing Options in Your Personal Computer  
PC 300 GL (6272 and 6282)  
発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社  
担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1997.3

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

# 目次

安全に正しくお使いいただくために .....	v
絵表示について .....	v
危険/注意ラベルの表示について .....	v
レーザーの安全性について .....	x
本書について .....	xi
本書の構成 .....	xii
関連資料 .....	xiii
お使いのコンピューターの識別方法 .....	xiv
モデル 6272 .....	xiv
モデル 6282 .....	xv
第1章 概要 .....	1
使用可能なオプションと機構 .....	2
必要なツール .....	2
電気に関する安全上の注意 .....	3
静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い .....	4
第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備 .....	5
ケーブルの取外しとカバーの取外し .....	5
構成部品の位置 .....	6
システム・ボード上のパーツの識別 .....	7
第3章 システム・ボードへのオプションの取付け .....	9
システム・メモリーの取付け .....	10
ビデオ・メモリーの取付け .....	15
L2 キャッシュの取付け .....	18
マイクロプロセッサの交換 .....	20
第4章 アダプターの取扱い方 .....	25
アダプターおよびライザー・カード .....	26
アダプター構成 .....	27
アダプターの取付け .....	29
アダプターの取外し .....	33
第5章 内蔵ドライブの取扱い .....	37
モデル 6272 への 3.5 インチ・ドライブの取付け .....	41

モデル 6272 への 5.25 インチ・ドライブの取付け .....	47
モデル 6282 へのドライブの取付け .....	51
<b>第6章 機密保護オプションの取扱い .....</b>	<b>58</b>
わからなくなったパスワードの消去 .....	59
ディスク書き込み禁止スイッチの設定 .....	62
<b>第7章 取付けの完了 .....</b>	<b>63</b>
ベイ・パネルの取外し .....	64
カバーの再取付けとケーブルの接続 .....	65
装置構成の更新 .....	67
<b>付録A. 電池の交換 .....</b>	<b>72</b>
<b>付録B. 割込みリソースと DMA リソース .....</b>	<b>75</b>
<b>付録C. 特記事項 .....</b>	<b>77</b>
商標 .....	77
索引 .....	78

---

## 安全に正しくお使いいただくために

本製品を安全に正しくご使用いただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

---

### 絵表示について

本製品を正しくご使用いただき、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよび本製品への安全表示については、以下の絵表示をしています。

 <b>危険</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

---

### 危険/注意ラベルの表示について

本製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがあるときは、安全上に関する危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。

このマニュアルに記述されている以外に、危険または注意ラベルによる表示があるときは（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

# 危険

この機器の中にある電源のカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。

この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

CD-ROM ドライブのドライブ・カバーを開けないでください。「レーザーの安全性について」をお読みください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあり、電気による危険を招くことがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、およびテレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

# 危険

## 電池について

本製品には、システム・ボード上にリチウム電池が使用されています。

電池の交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

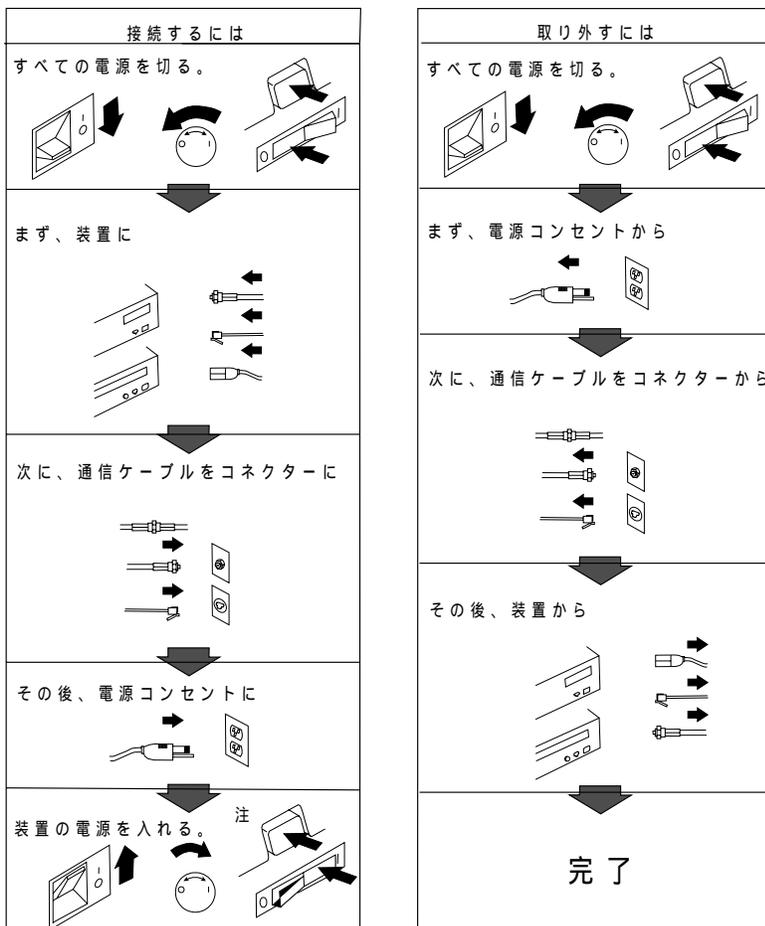
3ピン電源プラグが設置場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使い下さい。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施工されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお3ピン電源プラグを持つコンピュータで使用することを前提にしているオプション・アダプター・カード(例: LANアダプター・カード)は接地が必要です。

付属の接地端子付き電源プラグ以外は使用しないでください。また、付属の接地端子付き電源プラグをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

# ⚠ 危険

ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、以下のようにケーブルの接続、取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの取り外しはしないでください。

## 注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ずプラグを持って抜いてください。）

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本体を持ち上げたり、配置を変えたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。

長期間使用しないときは、電源プラグをACコンセントから抜いておいてください。

## レーザーの安全性について

IBM パーソナル・コンピューターの一部のモデルには、CD-ROM ドライブが搭載されています。CD-ROM ドライブは、オプションとしても別売されています。CD-ROM ドライブは、レーザーを使用している製品です。CD-ROM ドライブは Class 1 レーザー製品について規定している米国の Department of Health and Services 21 Code of Federal Regulations (DHHS 21 CFR) Subchapter J (保健福祉省連邦法規則 21 副章 J) に準拠しています。それ以外にもドライブは Class 1 レーザー製品の規格である国際電気標準会議 (IEC) 825 および CENELEC EN 60 825 に準拠しています。

CD-ROM ドライブがインストールされている場合は、以下のことに注意してください。

### 注意

本書で指定された内容以外の制御、調整または手順を行った場合、レーザーの放射の危機があります。

CD-ROM ドライブのカバーを開けると、危険なレーザーを浴びる可能性があります。CD-ROM ドライブの内部には、修理の対象となる部品はありません。カバーを開けないでください。

一部の CD-ROM ドライブは、CLASS 3A または CLASS 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。次の点に注意してください。

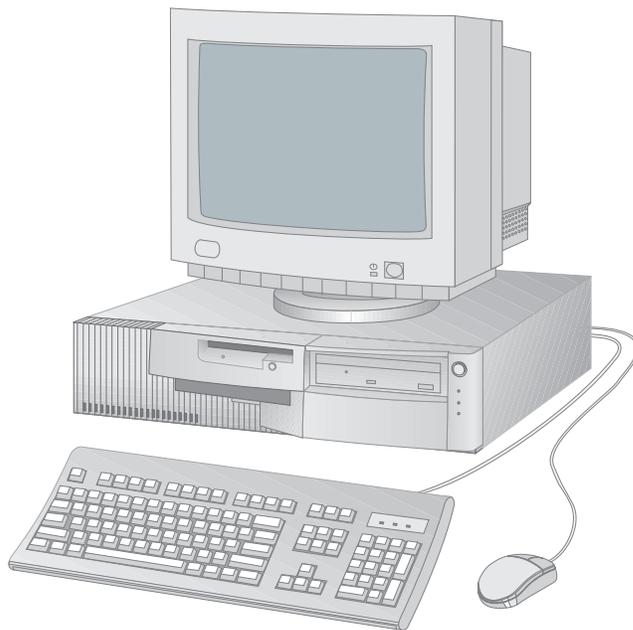
### 危険

CD-ROM ドライブのカバーを開けるとレーザーが放射されます。光線を見つめたり、光学器械を使って直接見たりしないでください。また、光線を直接浴びないようにしてください。

---

## 本書について

このたびは、IBM パーソナル・コンピューターをお買い上げいただきありがとうございました。



本書では、ほとんどのオプションの取付け、取外し、および交換の手順を説明しています。また、本製品に追加するオプションの選定に役立つ情報も記載しています。

注： 本書に示されている図は、実際にお手元にあるハードウェアと多少異なる場合があります。

---

## 本書の構成

本書は、次の章と付録で構成されています。

第1章、『概要』は、本製品のオプションおよび機構について紹介しています。安全に関する注意や取扱いのテクニックについて、オプションの取付けや取外しに必要なツールと合わせて説明してあります。

第2章、『オプションの取付けおよび取外しの準備』は、本製品のカバーとケーブルの取外し手順と、作業を行うのに使用する構成部品の位置の確認方法について説明しています。

第3章、『システム・ボードへのオプションの取付け』では、システム・ボード上のオプションの位置確認、アクセス、および扱い方法について説明します。

第4章、『アダプターの取扱い方』では、アダプターおよびドライバーの取付けおよび取外し方法について説明します。

第5章、『内蔵ドライブの取扱い』には、内蔵ドライブの取付けと取外しの手順が記載してあります。

第6章、『機密保護オプションの取扱い』では、分からなくなったパスワードの消去などの機能について説明しています。ディスクットの書込み禁止についても、記載してあります。

第7章、『取付けの完了』では、オプションの取付けが済んだ後で本製品を組み立て直す手順について記載しています。装置構成ユーティリティーの使用法についても説明してあります。

付録A、『電池の交換』は、電池の交換方法および電池の取扱いと廃棄に関する注意事項を記載しています。

付録B、『割込みリソースと DMA リソース』では、本製品の省略時割込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースを記載しています。

付録C、『特記事項』では、IBM の特記事項および商標を記載しています。

---

## 関連資料

本書だけでなく、以下の資料にも、本製品についての情報が記載されています。

### *セットアップ・ガイド*

このマニュアルには、本製品のセットアップ手順が記載されています。

### *ユーザーズ・ガイド*

このマニュアルには、本製品の構成、操作、および保守の手順が記載されています。また、問題の診断と解決の方法についても記載してあります。

### *解説書*

このオンライン・マニュアル (初期導入済みソフトウェアのあるモデルにのみ付属しています) には、パーソナル・コンピュータの使用法に関する一般情報および本製品の特定の機構に関する詳細情報が記載されています。このマニュアルのハードコピーを購入する場合は、「*IBM サービスのご案内*」を参照してください。このマニュアルの営業資料番号は SA88-5861 です。

### *初期導入済みソフトウェアについて*

このマニュアル (初期導入済みソフトウェアのあるコンピュータにのみ付属しています) には、その初期導入済みソフトウェア・パッケージに関する情報およびサポート CD の使用方法が記載されています。

下記のマニュアルには、本製品に関する詳細な情報が記載されています。このマニュアルは、IBM にご注文いただくことによって入手することができます。マニュアルの購入方法については、別冊の「*IBM サービスのご案内*」の「*マニュアルのご注文*」を参照してください。

### *保守マニュアル*

このマニュアルには、熟練した保守技術員のための情報が記載されています。

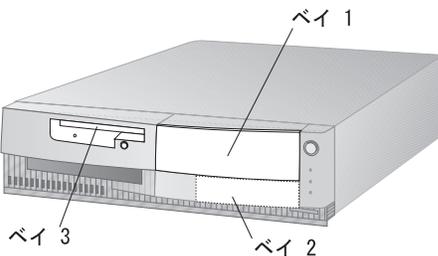
## お使いのコンピュータの識別方法

お使いのコンピュータを識別する方法は、マシン・タイプによる方法です。マシン・タイプは、マイクロプロセッサのタイプや、そのコンピュータがデスクトップなのかミニタワーなのかといったコンピュータの各種機構を示しています。この番号は、コンピュータの正面に付いている小さなラベルに示されています。たとえば、6282-52J というように示されています。

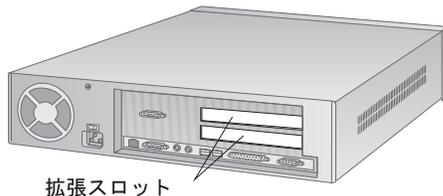
本製品のマシン・タイプは、6272 および 6282 の 2 種類があります。6272 は、拡張スロットが 2 つ、ドライブベイが 3 つ装備されたモデルです。6282 は、拡張スロットが 4 つ、ドライブベイが 4 つ装備されたモデルです。本書において、これらのマシン・タイプは区別する必要のある箇所でのみ使われます。これらの呼称を使わない説明は、本製品のすべてのモデルにあてはまります。

### モデル 6272

カバーの付いている状態では、モデル 6272 のベイ 2 は見えません。このベイはハード・ディスク・ドライブ用のものであり、CD-ROM ドライブまたはディスク・ドライブといったアクセス可能な媒体は備わっていません。モデル 6272 には、以下の背面図に示されており、アダプター用の拡張スロットが 2 つ備わっています。



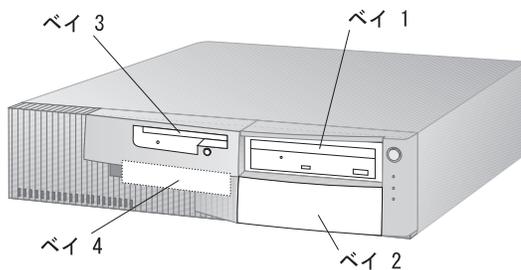
前面



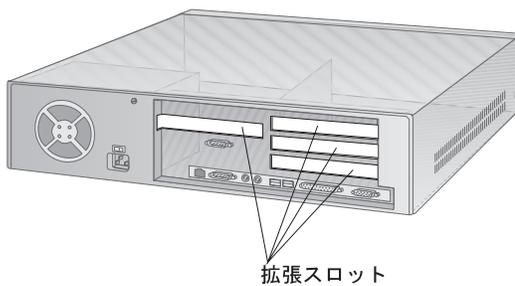
背面

## モデル 6282

カバーの付いている状態では、モデル 6282 のベイ 4 は見えません。このベイはハード・ディスク・ドライブ用のものであり、CD-ROM ドライブまたはディスク・ドライブといったアクセス可能な媒体は備わっていません。モデル 6282 には、以下の背面図に示されており、アダプター用の拡張スロットが 4 つ備わっています。



前面



背面



## 第1章 概要

本製品に別売りのオプションを取り付けることにより、簡単に機能を拡張できます。オプションや機構の取外し、取付け、交換方法についても、本書で説明しています。オプションを取り付ける際は、本書の手順と合わせて、オプションに付属のマニュアルもお読みになってください。すでに取り付けているオプションがある場合には、詳しい手順を読まなくとも、ある程度の作業を実行できることもあります。

この章では、本書で説明しているオプションや機構の概要を記載しています。また、必要なツール、電気に関する安全のための注意、および静電気の影響を受けやすい装置に関する重要な情報も記載されています。

### 重要

オプションの取付けまたは取外しを行う前に、この章に記載されている安全上の注意や構成部品の取扱いの指示をよく理解しておいてください。これらの注意や指針は、安全に作業を進める上で役立ちます。

本製品の用法、操作方法、保守に関する一般的な情報については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。*ユーザズ・ガイド*には、問題を解決したり修理サービスを受ける際に役立つ情報も含まれています。

---

## 使用可能なオプションと機構

本書で説明している使用可能なオプションと機構のいくつかを、以下に示します。

### システム・ボード構成部品

- システム・メモリー・アップグレード
- ビデオ・メモリー・アップグレード
- レベル 2 (L2) キャッシュ
- マイクロプロセッサ・アップグレード
- ディスケット書込み禁止用スイッチ
- 分からなくなったパスワードを消去するためのジャンパー
- 電池の交換

### アダプター

- ISA アダプター
- PCI アダプター

### 内蔵ドライブ

本製品には、これ以外のオプションも使用できます。たとえば、本体を、オプションのフロア・スタンドに取り付けることができます。取付け手順は、これらのオプションに付属しています。

使用可能なオプションに関する最新情報については、お買上げの販売店または IBM 特約店にお問い合わせください。

---

## 必要なツール

本製品にオプションを取り付けたり、取り外したりする際には、プラスおよびマイナスのドライバーが必要です。それ以外の必要なツールは、特定のオプションにより異なるため、各オプションに付属の説明書に記載されています。

---

## 電気に関する安全上の注意

### 注意:

電源、電話、および通信ケーブルに流れている電流は危険です。感電を防止するために、以下の手順に従って電源コードおよびケーブルを外してください。

安全を確保するために、カバーを取り外す前に必ず以下の作業を行ってください。

1. ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルの指示に従ってプログラムを終了させます。
2. 本体と、プリンター、モニター、外付けドライブなどの接続装置の電源をオフにします。
3. 電源コンセントからすべての電源コードを抜きます。
4. 外部コンセントからすべての通信ケーブルを抜きます。
5. 本体の背面からすべてのケーブルおよび電源コードを抜きます。

注: 本体を組み立て直してカバーを取り付けるまでは、ケーブルや電源コードを接続しないようにしてください。

### 注意:

電源機構のカバーは絶対に取り外さないでください。電源機構で問題が発生した場合には、本体の修理を依頼してください。

---

## 静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い

カーペット敷きの床を歩いているときに何かに接触して小さな電気ショックを受けた経験はありませんか。これが静電気です。静気は人体には無害ですが、本製品の構成部品やオプションには損傷を与える場合があります。

### 重要

オプションを取り付ける際には、指示があるまで、オプションが入っている静電気防止袋を開けないでください。

静電気による損傷を回避するために、オプションやその他の構成部品を取り扱う際には、以下の注意を守ってください。

身体の動きを最小限にとどめます。動作が多いと、周囲に静電気が帯電する可能性があります。

構成部品は常に注意して取り扱います。アダプターやメモリー・モジュールを扱うときは、端を持ってください。回路の露出部には決して手を触れないでください。

他の人が構成部品に触れないようにします。

新たにオプションを取り付ける際は、オプションが入っている静電気防止袋を、本体の金属製拡張スロット・カバーかその他の塗装されていない金属面に 2 秒間以上接触させます。これによって、パッケージや人体の静電気を少なくすることができます。

オプションの取外しと取付けを行う際には、オプションはできるだけ下に置かず直接本体に取り付けます。やむをえずオプションを他の場所に置かなければいけない場合は、そのオプションが入っていた静電気防止袋を凹凸のない平らな面に置き、その上にオプションを置くようしてください。

本体のカバーやその他の金属面の上にオプションを置かないようにします。

## 第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備

この章では、取付けまたは取外しを行いたいオプションの位置の確認手順を記載しています。

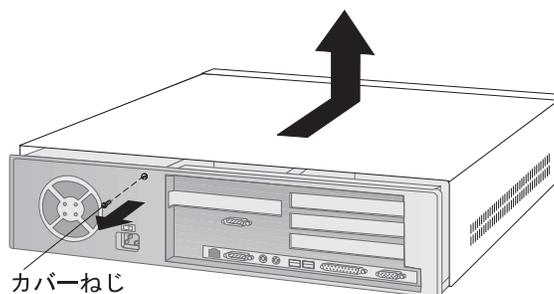
### ケーブルの取外しとカバーの取外し

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

ドライブからあらゆる媒体（ディスケット、コンパクト・ディスク、テープ）を取り出し、次に、すべての接続装置と本体の電源をオフにします。媒体の取外し方の詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

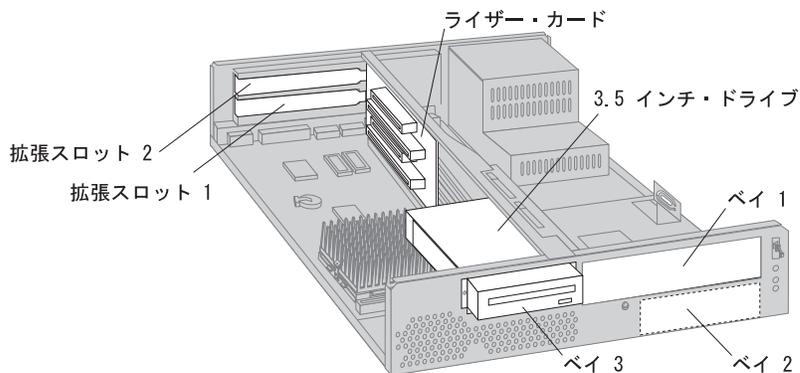
- 1 本製品に接続しているケーブルをすべて取り外します。これには、電源コード、および入出力 (I/O) ポートに接続されているケーブルまたは回線が含まれます。
- 2 本体背面からカバー用ねじを取り外します。カバーを 2 cm ほど本体前面の方へスライドさせ、それから上方に持ち上げて取り外します。下図は、モデル 6282 のカバーを取り外す場合を示しています。



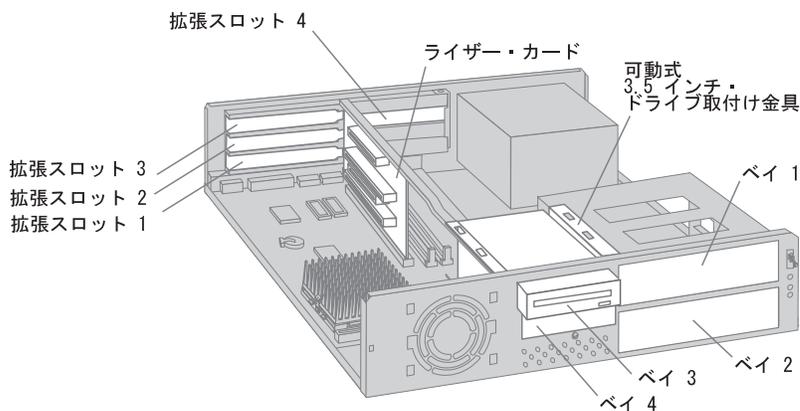
注: ご使用のコンピューターが上の図のモデルと違って、カバーの取外し方は同じです。

## 構成部品の位置

以下の情報は、構成部品の位置を確認したり、オプションを取り付ける際に参照する上で役に立ちます。下図は、正面から見た 2 つのモデルの内部を示しています。カバーの取外し方については、5 ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください。



モデル 6272



モデル 6282

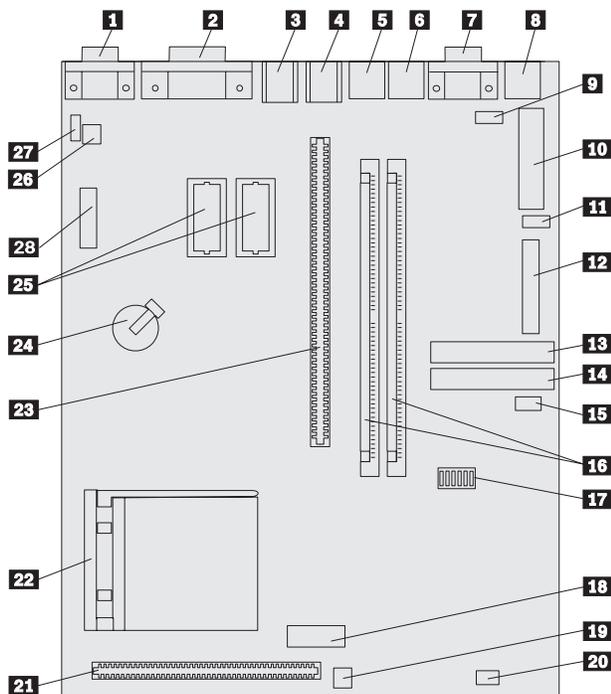
本製品には、3.5 インチ・ディスクット・ドライブ、およびハードディスク・ドライブが標準装備されています。CD-ROM ドライブが標準装備されている場合には、ベイ 1 に取り付けられています。オーディオ・アダプターが標準装備されている場合には、ライザー・カードに取り付けられています。

## システム・ボード上のパーツの識別

システム・ボードは、プレーナー または マザーボード ともいいますが、本製品の主要部品です。このボードは、基本的なコンピューター機能を提供するもので、各種装置をサポートしています。

本製品へのハードウェアの取付け、取外し、または交換を行う場合は、システム・ボードのレイアウトを知っておく必要があります。次の図には、本製品のシステム・ボードのレイアウトが示されています。

- 1 モニター・コネクター
- 2 パラレル・ポート・コネクター
- 3 USB コネクター 2
- 4 USB コネクター 1
- 5 マウス・コネクター
- 6 キーボード・コネクター
- 7 シリアル・ポート A コネクター  
(2 つ目のシリアル・ポート (B) コネクターは、このパネルの上についています。)
- 8 イーサネット・コネクター  
(標準装備の場合)
- 9 シリアル・ポート B ヘッダー
- 1 主電源コネクター
- 11 CMOS (パスワード) クリアー・ジャンパー
- 12 ディスケット・ドライブ・コネクター
- 13 1 次 EIDE コネクター
- 14 2 次 EIDE コネクター
- 15 ハード・ディスク・ドライブおよび電源 LED コネクター
- 16 システム・メモリー・コネクター
- 17 マイクロプロセッサ速度およびディスク書き込み禁止用のスイッチ
- 18 3.3V 電源コネクター
- 19 ファン・コネクター
- 2 LAN 状況 LED コネクター
- 21 L2 キャッシュ・コネクター
- 22 マイクロプロセッサ・コネクター
- 23 ライザー・カード・コネクター
- 24 電池
- 25 ビデオ・メモリー・コネクター
- 26 Wake on LAN コネクター
- 27 Wake on リング/モデム・コネクター
- 28 VESA バススルー・コネクター



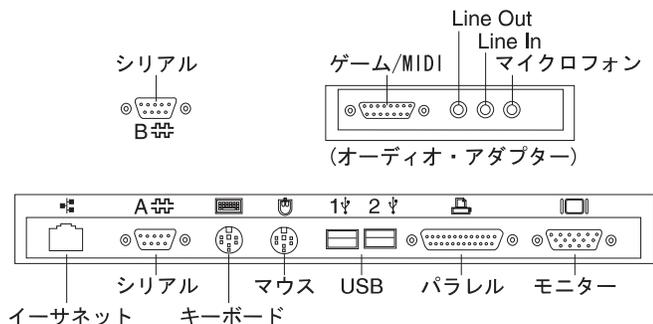
注: システム・ボードの図および追加情報は、本体カバーの裏側にあるラベルに記載されています。

## 入出力コネクタの識別

入出力 (I/O) コネクタにより、本製品から情報を出し入れするためのポートが提供されます。本製品には、モニター、キーボード、マウス、プリンターを含め、各種の入出力装置を接続できます。各ポートおよびそれぞれの特定のテクノロジーの詳細については、*解説書*を参照してください。<sup>1</sup>

本製品の背面のパネルに I/O コネクタが装備されています。拡張スロットに取り付けられているアダプターにより I/O コネクタが提供される場合もあります。以下の図は、本体に付属している I/O コネクタを示しています。

ご使用のコンピューターにオーディオ・アダプターが標準装備されている場合には、パネルの上にこれ以外のコネクタが見えています。3 つの円形コネクタは、アンプ内蔵型スピーカーまたはマイクロホンといった装置のためのオーディオ接続です。ゲーム/MIDI ポートは、ゲーム制御またはその他の装置の接続に使用されます。



注: ご使用のコンピューターに、上記のコネクタがすべて付いているとは限りません。

<sup>1</sup> *解説書*の詳細については、xiiiページの『関連資料』を参照してください。

## 第3章 システム・ボードへのオプションの取付け

注: システム・ボード上の大部分の構成要素は、モデル 6272 と 6282 で同じであるため、この章に記載されている手順は、どちらのモデルにも適用されます。

この章では、下記のシステム・ボード・オプションについて説明します。

システム・メモリー

ビデオ・メモリー

L2 キャッシュ

マイクロプロセッサ・アップグレード

作業を始める前に

オプションの取付け、取外し、または交換を行う前に、必ず、以下を行ってください。

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うオプションに付属している説明書をお読みください。

本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外してください。

---

## システム・メモリーの取付け

本製品にメモリーを増設してシステムのパフォーマンスを上げることができます。本製品には、システム・メモリー・モジュール用のコネクタが 2 つ備わっています。本製品がサポートしているシステム・メモリーの最大容量は、128 MB です。

本製品が使用するメモリー・モジュールは、168 ピン DIMM (デュアル・インライン・メモリー・モジュール) です。本製品に標準装備の DIMM は、SDRAM (同期ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー) モジュールです。メモリーを追加したり、あるいは既存のメモリーを他の SDRAM モジュールまたは EDO (拡張データ・アウト) DRAM モジュールと交換することができます。

システム・メモリーの取付けまたは交換の際は、次の事項に注意してください。

3.3 ポルトの、バッファなし、168 ピン DIMM (SDRAM または EDO DRAM) のみを使用してください。

64MB SDRAM DIMM は使用できません。(したがって、最大容量 128MB で使用するには 64MB EDO DIMM を 2 枚装着しなければなりません。)

サポートされているのは、ノンパリティ・メモリーだけです。

メモリー・サイズによる装着順序は、任意です。

SDRAM メモリーと EDO メモリーを組合せて使用することができます。(たとえば、16MB SDRAM DIMM 1 枚と 16MB EDO DIMM 1 枚を装着して、使用することができます。)

メモリー・モジュールの最大高は、3.175 cm です。これより大きなメモリー・モジュールを使用すると、ライザー・カードの下部の拡張スロットが使用できなくなる場合があります。

SIMM (単一インライン・メモリー・モジュール) は使用できません。

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

システム・メモリー・オプションに付属の説明書をお読みください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

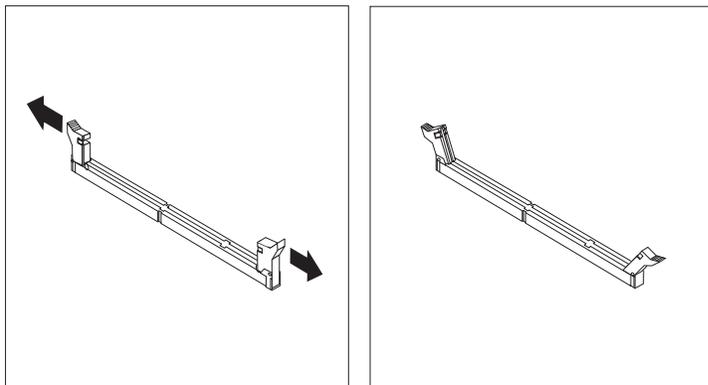
システム・ボード上のシステム・メモリー・コネクタの位置を確認してください。7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

システム・メモリー・モジュールを扱うのにアダプターが邪魔になる場合には、アダプターを取り外してください。詳細については、33ページの『アダプターの取外し』を参照してください。

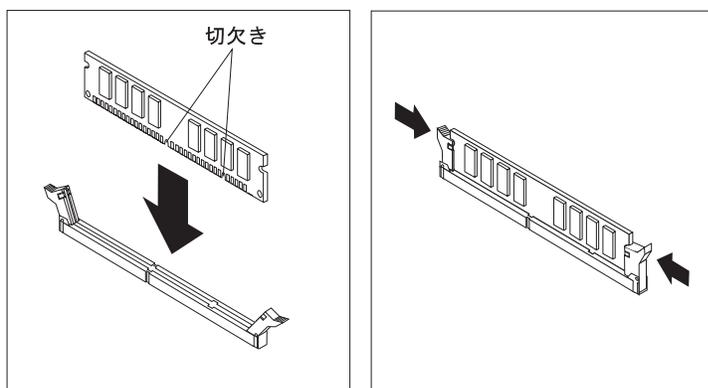
モジュールを取り外す必要がある場合には、13ページに進んでください。

## システム・メモリーを取り付ける場合:

- 1 以下の 2 番目の図に示されているとおり、必ず、留めクリップがオープンになるようにします。留めクリップがコネクターに対して垂直になっている場合には、オープンの位置になるまで、外側に押し開いてください。



- 2 システム・メモリー・モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない 金属面に接触させてから、モジュールを袋から取り出します。
- 3 モジュールの下部の端にある切欠きがコネクターの位置に正しく合うように、コネクターの上方でモジュールの位置を定めます。
- 4 留めクリップが飛び出して、モジュールの両端にぴったりはまるまで、モジュールをまっすぐコネクターにはめ込みます。



- 5** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、取り付けたいメモリーに関する情報を記録してください。

次の手順

アダプターを取り外しており、再度取り付けたい場合には、29ページの『アダプターの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

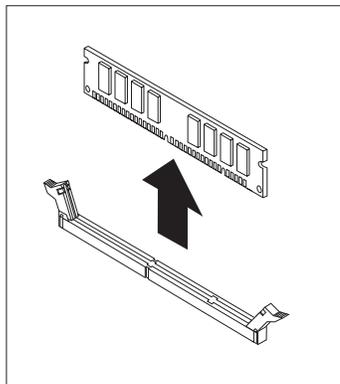
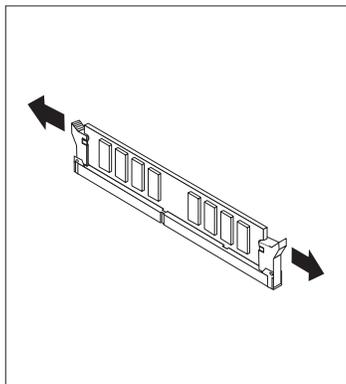
取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

システム・メモリーを取り外す場合:

- 1** コネクターの両端で、モジュールが緩くなるまで、留めクリップを外側に押し開きます。留めクリップを開放せずにモジュールを緩めたり、取り外したりしないでください。

注: 留めクリップを強く押しすぎないように注意してください。モジュールが突然コネクターから飛び出すことがあります。

- 2** モジュールをコネクターから持ち上げて取り外します。



- 3** モジュールを静電気防止袋に保管します。

#### 次の手順

アダプターを取り外しており、再度取り付けたい場合には、29ページの『アダプターの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## ビデオ・メモリーの取付け

システム・ボードがサポートしているシステム・メモリーの最大容量は、2 MB です。モデルによっては、2 MB のビデオ・メモリーが標準装備されているため、ビデオ・メモリーのアップグレードは必要ないものがあります。

本製品に 1 MB のビデオ・メモリーがあらかじめ取り付けられている場合には、追加のビデオ・メモリー・モジュールを取り付けることにより、システムの性能を高め、ディスプレイ・モードを増やすことができます。ビデオ・メモリー・モジュール・キットは、1 MB 単位で増設できます。

### ヒント

本製品に取り付けられているビデオ・メモリーの容量が分からない場合には、以下の手順を実行してください。

1. コンピューターの電源をオンにし、装置構成ユーティリティを始動します (68ページの『装置構成ユーティリティの開始』を参照)。
2. デバイスと I/O ポートを選択します。
3. ビデオの設定を選択します。
4. ビデオ・メモリーの欄を見てください。値が 1024 KB である場合には、本製品には、1 MB のビデオ・メモリーが装備されており、アップグレードすることが可能です。この値が 2048 KB の場合は、システム・ボードには、すでに最大容量のビデオ・メモリーが装備されているので、アップグレードは不要です。
5. 装置構成ユーティリティを終了します (70ページの『設定の変更と終了』を参照)。

## ビデオ・メモリーを取り付ける場合:

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

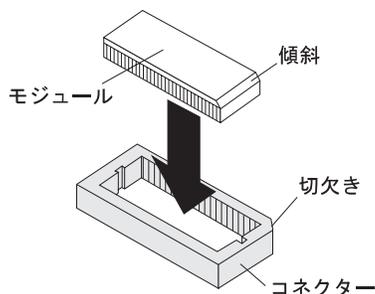
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

システム・ボード上のビデオ・メモリー・モジュール・コネクターの位置を確認してください。7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

ビデオ・メモリー・モジュール・コネク터를扱うのにアダプターが邪魔になる場合には、アダプターを取り外してください。詳細については、33ページの『アダプターの取外し』を参照してください。

- 1 メモリー・モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない金属面に接触させてから、モジュールを袋から取り出します。
- 2 モジュールのマーキング(小さな円、または傾斜角)がコネクターの切欠きの位置に正しく合うように、コネクターの上方でモジュールの位置を定めます。

注: ビデオ・メモリー・モジュールのマーキングは、メーカーにより異なります。ご使用のモジュールには、隅に小さな円があるか、縁に傾斜が付いているか、もしくはくぼみのある半円が付いています。下図は、縁に傾斜の付いたモジュールを示しています。



- 3 モジュールが完全に収まるまでコネクターに差し込みます。

- 4 ステップ 1 から 3 までを繰り返して、メモリー・モジュールをもう 1 つ取り付けます。
- 5 ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、取り付けたメモリーに関する情報を記録します。

— 次の手順 —

アダプターを取り外しており、再度取り付けたい場合には、29ページの『アダプターの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

メモリーのアップグレードまたは変更を行った後で、ビデオ・デバイス・ドライバーを再度導入する必要があります。これらのデバイス・ドライバーは、本製品に付属のサポート CD に入っています。

## L2 キャッシュの取付け

本製品には、256 KB の L2 キャッシュが標準装備されています。L2 キャッシュ・モジュールは交換できるようになっています。

注: モジュールは、高さが 2.90 cm、幅が 11.05 cm を超えるものは使用しないでください。

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

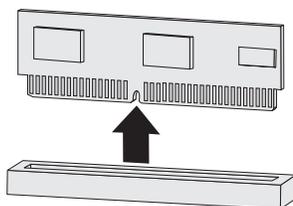
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

システム・ボード上のL2 キャッシュの位置を確認してください。7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

モデル 6272 をお使いの場合には、3.5 インチ・ドライブ取付け金具を取り外してください。詳細については、1 (45ページ) および2 (45ページ) を参照してください。

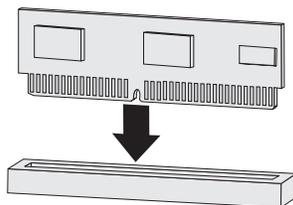
L2 キャッシュ・コネクタを扱うのにアダプターが邪魔になる場合には、アダプターを取り外してください。詳細については、33ページの『アダプターの取外し』を参照してください。

- 1 取り付けられているモジュールを持ち上げて、取り外します。



- 2 モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない金属面に接触させてから、モジュールを袋から取り出します。

- 3** モジュールの切欠きを、コネクタの切欠きの位置に合わせます。モジュールが完全に収まるまでコネクタに差し込みます。



- 4** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、取り付けた L2 キャッシュに関する情報を記録してください。

次の手順

取り外した L2 キャッシュ・モジュールを静電気防止袋に保管します。

3.5 インチ・ドライブ取付け金具を取り外している場合には、再度取り付けます。詳細については、6および7 (46ページ) を参照してください。

アダプターを取り外してある場合には、再度取り付けます。詳細については、29ページの『アダプターの取付け』を参照してください。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## マイクロプロセッサの交換

本製品には、Intel Pentium マイクロプロセッサが標準搭載されています。将来のマイクロプロセッサ・アップグレードが使用できる場合があります。本製品で使用できるマイクロプロセッサのアップグレードに関する最新情報については、お買上げの販売店または IBM 特約店にお問い合わせください。マイクロプロセッサをアップグレードする場合は、本書に記載されている手順と合わせて、アップグレードに付属してくる説明書を使用してください。

### 注意

マイクロプロセッサおよびヒート・シンクは、本製品が稼働中は熱くなります。コンピューターがオンになっている場合には、やけどを防ぐために、マイクロプロセッサとヒート・シンクを 10 分間冷やしてから、この手順を続行してください。

#### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

新しいマイクロプロセッサに付属の説明書をお読みください。

取り外したマイクロプロセッサを保管する静電気防止袋を用意してください。

本製品の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

システム・ボードのマイクロプロセッサの位置を確認します。7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

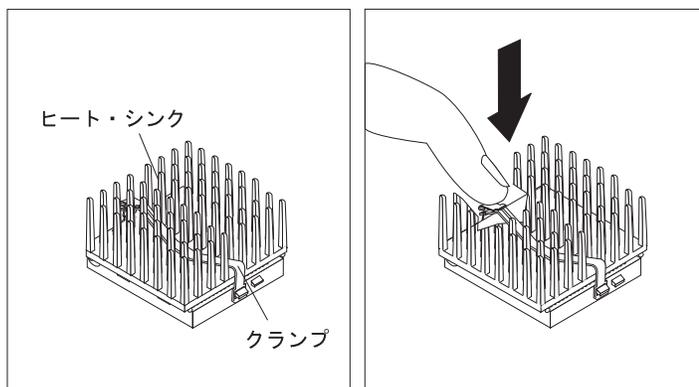
## マイクロプロセッサを交換する場合:

- 1 モデル 6272 をお使いの場合には、3.5 インチ・ドライブ取付け金具を取り外します。詳細については、1 (45ページ) および 2 (45ページ) を参照してください。
- 2 マイクロプロセッサを扱うのにアダプターが邪魔になる場合には、アダプターを取り外してください。詳細については、33ページの『アダプターの取外し』を参照してください。

### ⚠ 注意

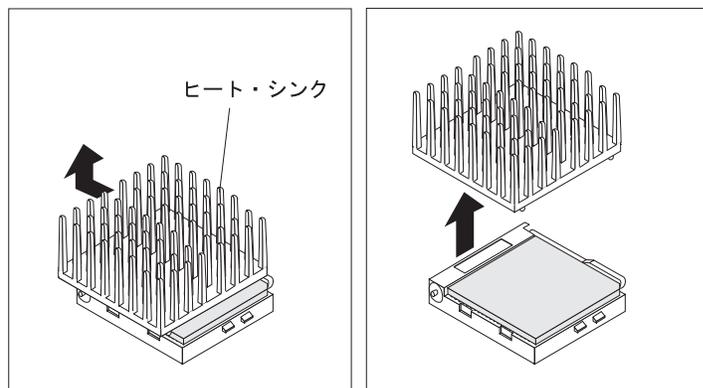
マイクロプロセッサを取り外すときには、システム・ボード上の部品をこすらないように注意してください。また、留めクランプは引っ張られているため、取外しの際に押えておかないと、突然はずれることがあります。

- 3 クランプ・フックの両端のスロットが、マイクロプロセッサ・コネクターのタブに引っ掛かっています。クランプを押し下げ、クランプの両端にあるタブを放して、クランプを取り外してください。

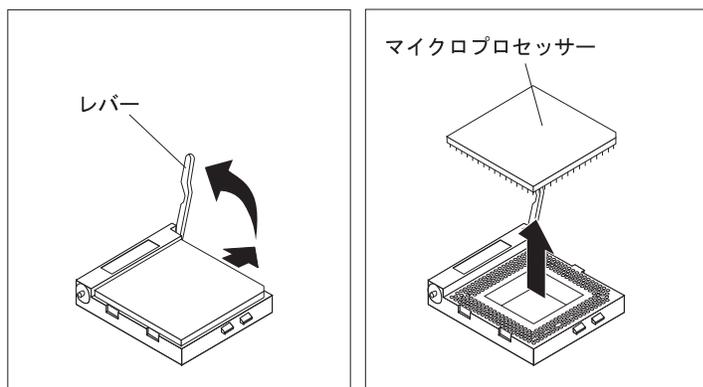


注: ヒート・シンクをマイクロプロセッサに密着させ、安全な操作温度を保持するのに熱グリースが使われています。ヒート・シンクがマイクロプロセッサに永久的に接着されている場合は、ステップ 5 でレバーを持ち上げた後にヒート・シンクとマイクロプロセッサの両方を取り外すことができます。また、このグリースが皮膚に付着しないよう注意してください。このグリースが皮膚に付着した場合は、せっけんと水で付着した部分を洗浄してください。

- 4** ヒート・シンクを片側にスライドさせて持ち上げて、ヒート・シンクを取り外します。  
(ヒート・シンクをスライドさせると、熱グリースから離れやすくなります。)



- 5** マイクロプロセッサ・コネクタ側のレバーを外し、一杯まで持ち上げます。こうすると、マイクロプロセッサが解放されます。マイクロプロセッサをソケットから持ち上げます。

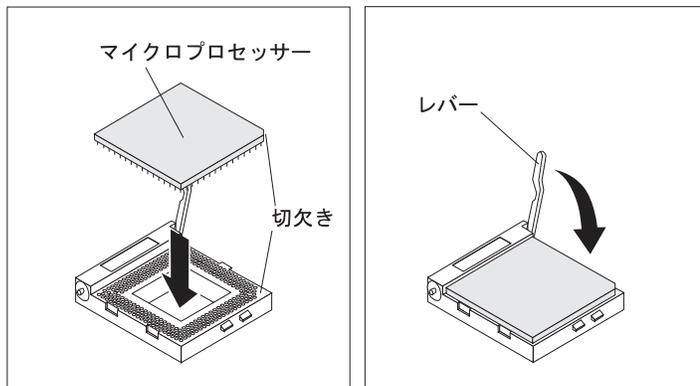


- 6** 取り外したマイクロプロセッサを静電気防止袋に保管します。
- 7** 新しいマイクロプロセッサが入っている静電気防止袋を本製品の塗装されていない金属面に接触させてから、新しいマイクロプロセッサを袋から取り出します。

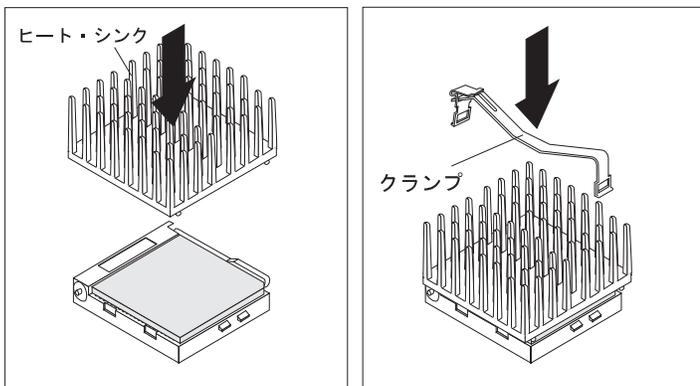
- 8** 新しいマイクロプロセッサのピンを、ソケットの位置に合わせ、所定の位置に収まるまでマイクロプロセッサを差し込みます。

注: マイクロプロセッサをソケットに差し込む際には注意してください。マイクロプロセッサのピンは一方方向にしか接続できません。

レバーを押し下げて、マイクロプロセッサを所定の位置にロックします。



- 9** ヒート・シンクとクランプを元どおりの位置に取り付けます。



- 10** 速度の異なるマイクロプロセッサと交換した場合は、マイクロプロセッサ速度を更新する必要があります。これを行うには、システム・ボードのスイッチをしかるべく設定しなければなりません。スイッチの場所については、7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。適切なスイッチ設定については、本製品カバーの裏側にあるラベルを見るか、あるいは、本製品の購入元または IBM 特約店にお問い合わせください。

— 次の手順 —

3.5 インチ・ドライブ取付け金具を取り外している場合には、再度取り付けます。詳細については、6 および 7 (46ページ) を参照してください。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## 第4章 アダプターの取扱い方

この章では、アダプターの取付けおよび取外しについて説明します。

アダプターの取付けまたは取外しの際には、発生するリソースの競合を解決することが重要です。たとえば、ISA の従来型アダプターを取り付ける場合には、アダプター上の各種スイッチを設定したり、装置構成ユーティリティを使用したりすることによって、アダプターを手動で設定する必要があります。

現在では、多くのアダプターがプラグ・アンド・プレイ 技術を採用しており、本製品がアダプターを自動的に設定して、必要なリソースを利用可能にするようになっています。アダプターに付属している説明書を参照して、プラグ・アンド・プレイかどうかを判別してください。詳細については、27ページの『アダプター構成』を参照してください。

### 重要

取り付けることのできるアダプター・サイズには下記の制限があります。

- モデル 6272 には、17.78 cm を超えるアダプターを取り付けることはできません。
- モデル 6282 では、17.78 cm を超えるアダプターを拡張スロット 1 に取り付けることはできません。また、20.32 cm を超えるアダプターを拡張スロット 4 に取り付けることはできません。

モデル 6272 をお使いの場合、電源機構の容量により、消費電力が 25 W 以上のアダプターを両方の拡張スロットに取り付けることはできません。

本製品にグラフィックス (ビデオ) アダプターを取り付けることができます。グラフィック・アダプターが ISA アダプターである場合には、基本 ROM (読取り専用メモリー) は C0000H に配置されています。

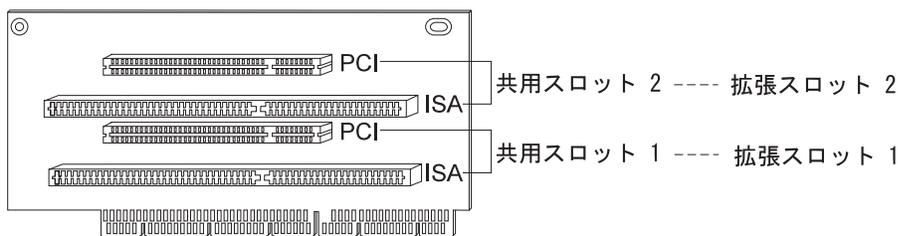
コンピューターは始動されるたびに、ISA または PCI スロットのどちらかに取り付けられているグラフィックス・アダプターを探します。コンピューターがグラフィックス・アダプターを検知すると、システム・ボードに組み込まれたビデオ・サブシステムは使用不能になります。グラフィックス・アダプターが取り付けられている場合でも、システム・ボード上のジャンパーを変更する必要はありません。

グラフィックス以外の ISA アダプターを取り付けたい場合には、必ず、基本 ROM アドレスを C0000H 以外に配置してください。そうしないと、コンピューターは、このアダプターをグラフィックス・アダプターと認識し、ビデオ・サブシステムが使用可能になりません。

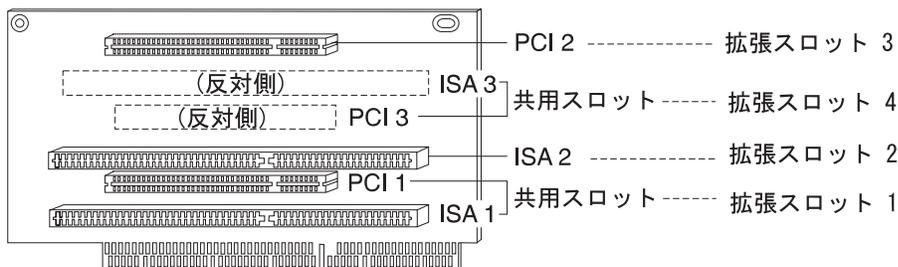
## アダプターおよびライザー・カード

本製品は、拡張スロットのためにライザー・カードを使用しています。ライザー・カードには、ISA バスと PCI バスにアダプターを接続する拡張スロットが組み込まれています。データ経路は、ISA 拡張スロットの場合は 16 ビット幅で、PCI 拡張スロットの場合は 32 ビット幅です。

モデル 6272 のライザー・カードには、ISA バスと PCI バスの共用スロットが組み込まれています。各共用スロットに取り付けられるアダプターは 1 つだけです。したがって、モデル 6272 では最大 2 つのアダプターをライザー・カードに差し込むことができます。モデル 6282 のライザー・カードには共用スロットが 2 つ、ISA 専用バスが 1 つ、PCI 専用バスが 1 つ装備されています。モデル 6282 では、最大 4 つのアダプターをライザー・カードに差し込むことができます。下図は、モデル別にライザー・カードを示しています。



モデル 6272



モデル 6282

---

## アダプター構成

アダプターの構成の際には、アダプターに付属している資料とともに、下記の情報も参照してください。

### プラグ・アンド・プレイ・アダプター

本製品では、ISA アダプターを構成する新しい方式が採用されています。プラグ・アンド・プレイは、本製品の拡張を容易にする構成方法です。プラグ・アンド・プレイのサポート機能は、本製品のシステム・ボードに内蔵されています。

アダプターがプラグ・アンド・プレイである場合には、アダプター上で設定するスイッチやジャンパーはありません。プラグ・アンド・プレイ・アダプターのメモリーには、アダプターの構成情報が組み込まれており、始動時に、本製品に導入情報を提供します。プラグ・アンド・プレイ・アダプターの取付けまたは取外しの際に、プラグ・アンド・プレイ技術をサポートする基本入出力システム (BIOS) により、この情報が解釈されます。必要なリソースが利用可能な場合には、BIOS ソフトウェアは、他の装置によってすでに使用中のリソースを避けて、アダプターを自動的に構成します。

ISA アダプターの多くはプラグ・アンド・プレイ対応です。プラグ・アンド・プレイ対応でない ISA アダプターは、従来型アダプターと呼ばれます。

注:

1. プラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り付けた後にリソースの競合が発生した場合には、アダプターのデフォルトのリソース設定を変更する必要があります。詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

#### 重要

ご使用のモデルに内蔵イーサネット装置が装備されていて、それを使用する予定がない場合には、装置構成ユーティリティー・メニューの「イーサネットの使用」オプションを「しない」にしてください。イーサネットの使用を「しない」にすると、他の装置で利用できるシステム・リソースが解放されます。イーサネットの設定の詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

## 従来型アダプター

プラグ・アンド・プレイ対応でないアダプターは**従来型アダプター**と呼ばれます。従来型アダプターを取り付ける場合には、アダプター上のスイッチを設定したり、装置構成ユーティリティーを使用してシステム・リソースを割り振ることによって、アダプターを手動で構成する必要があります。

装置構成ユーティリティーでは、ISA リソース画面で、アダプターが使用するリソースを割り振ります。

- メモリー・リソース
- I/O ポート・リソース
- DMA リソース
- 割込みリソース

適切な画面で、取り付けるアダプターが利用可能なリソースを選択することができます。ISA 従来型アダプターが使用しないリソースは、[使用可]とリストされます。新しく取り付ける従来型の ISA アダプターが使用するリソースを[ISA で使用中]に設定しなければなりません。これによって、ソフトウェアが、これらのシステム・リソースを従来型アダプターに使用することができるようになります。

取り付けるアダプターのためにシステム・リソースを変更したように、従来型の ISA アダプターを取り外す際にもリソースを変更しなければなりません。従来型のアダプターを取り外す場合には、使用していたリソースの設定を[使用可]に戻してください。これによって、これらのリソースを、プラグ・アンド・プレイ・ソフトウェアが将来の構成で自動的に使用したり、手動の構成時に使用したりできるようになります。

注:

1. 従来型アダプターとプラグ・アンド・プレイ・アダプターの両方を取り付ける場合には、最初に従来型アダプターを取り付けてから、次にプラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り付けてください。プラグ・アンド・プレイ・アダプターは、従来型アダプターが使用するリソースを避けて構成されます。
2. 必要なシステム・リソースの詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。
3. 従来型アダプターの中には、アダプターを拡張スロットに装着する前に、使用するリソースを設定しなければならないアダプターがあります。

ISA 従来型アダプターを構成する際の装置構成ユーティリティーの使い方の詳細については、71ページの『従来型 ISA アダプターの構成』または**ユーザーズ・ガイド**を参照してください。リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、**ユーザーズ・ガイド**を参照してください。

## アダプターの取付け

### 作業を始める前に

取り付けようとするアダプターがプラグ・アンド・プレイ対応の場合には、次のステップに進んでください。取り付けようとするアダプターがプラグ・アンド・プレイ対応でない場合には、装置構成ユーティリティーを使って、リソース情報を設定してください。詳細については、28ページの『従来型アダプター』を参照してください。vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

新しいアダプターに付属の説明書を読み、そのアダプターを ISA スロットまたは PCI スロットのどちらに取り付ける必要があるか判別してください。

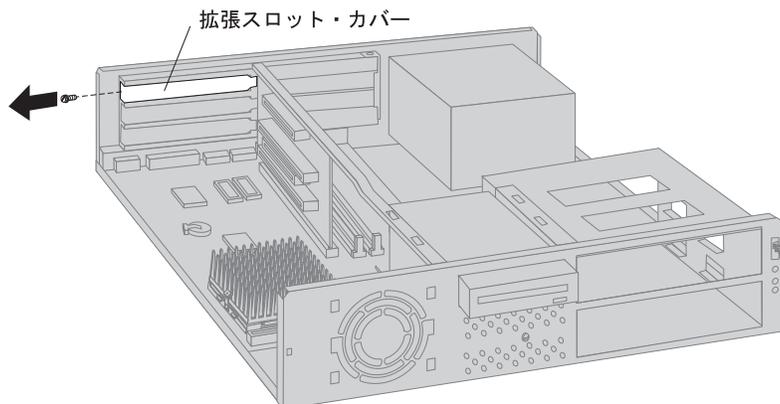
本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

モデル 6272 にアダプターを取り付ける場合、もしくはモデル 6282 の拡張スロット 1、2、または 3 にアダプターを取り付ける場合には、『拡張スロット 1、2、または 3 へのアダプターの取付け』に進んでください。モデル 6282 のスロット 4 にアダプターを取り付ける場合には、31ページの『拡張スロット 4 へのアダプターの取付け』に進んでください。

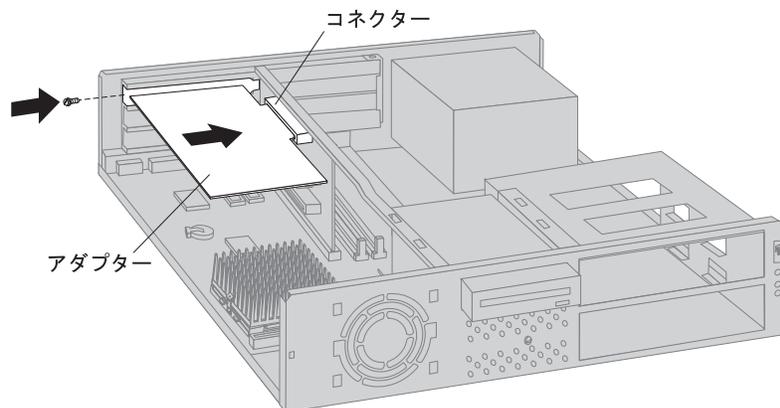
### 拡張スロット 1、2、または 3 へのアダプターの取付け

注: 下記の手順は、参照のためだけのものです。拡張スロット 1 または 2 にアダプターを取り付けるための手順は、モデル 6272 でもモデル 6282 でも共通です。

- 1 該当する拡張スロットのねじとカバーを外します。



- 2 アダプターが入っている静電気防止袋を、本製品の塗装されていない金属面に接触させてから、アダプターを袋から取り出します。
- 3 アダプターをライザー・カード上の該当するスロットに取り付け、ねじで固定します。取付けの際に、本製品またはアダプターの部品が邪魔になる場合には、別のスロットを使用してください。



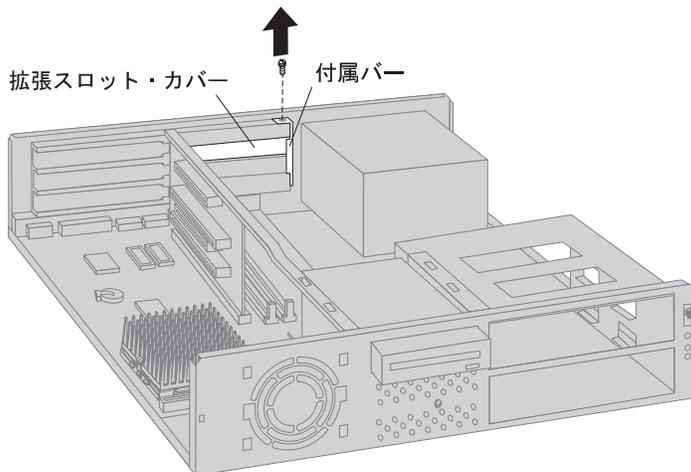
- 4 ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」で、取り付けたスロットの横にアダプター名を書き込みます。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。  
取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

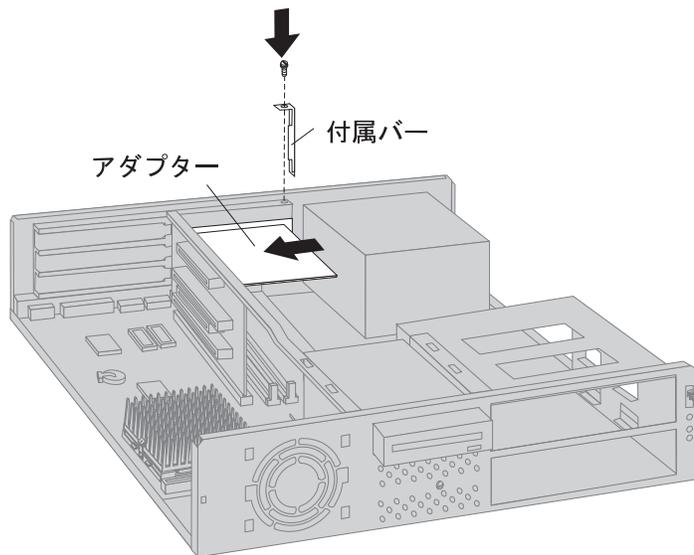
## 拡張スロット 4 へのアダプターの取付け

- 1 該当する拡張スロットのねじと付属バーを外します。



- 2 アダプターが入っている静電気防止袋を、本製品の塗装されていない金属面に接触させてから、アダプターを袋から取り出します。
- 3 アダプターをライザー・カード上の該当する ISA スロットまたは PCI スロットに取り付け、付属バーとねじを取り付けます。

注: 取付けの際に、本製品またはアダプターの部品が邪魔になる場合には、別のスロットを使用してください。



- 4** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」で、取り付けたスロットの横にアダプター名を書き込みます。

— 次の手順 —

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## アダプターの取外し

注: 別のコンピューター構成部品に手が届くようにするためにアダプターを取り外す場合には、そのアダプターを取り外したスロット位置を覚えておいてください。アダプターを再度取り付けるときに、この情報が必要になります。

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

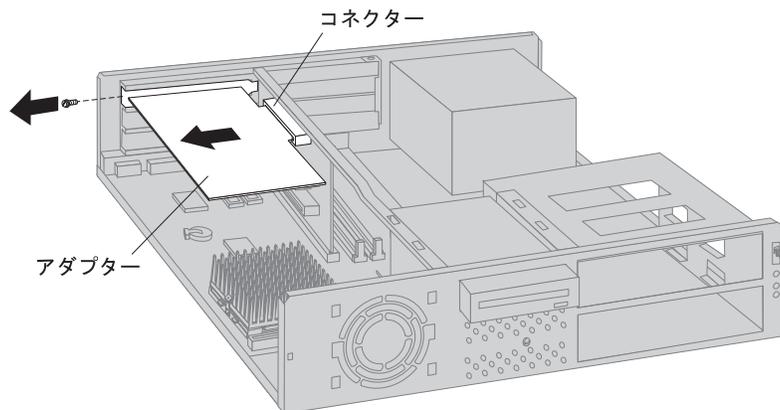
本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外し、本製品のカバーを取り外します(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

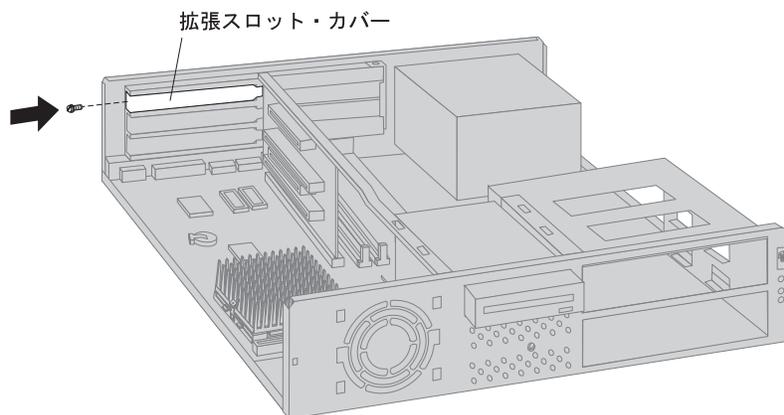
### スロット 1、2、または 3 からのアダプターの取外し

注: 下記の手順は、参照のためだけのものです。拡張スロット 1 または 2 からアダプターを取り外すための手順は、モデル 6272 でもモデル 6282 でも共通です。

- 1 アダプターを確認して、ねじを取り外します。
- 2 アダプターを取り外して、静電気防止袋に入れます。下図は、PCI スロットから取り外すアダプターを示しています。



- 3** このスロットに別のアダプターを取り付ける必要がない場合には、拡張スロット・カバーを取り付けます。下図は、取り付けた拡張スロットのカバーを示しています。



- 4** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、取り外したアダプターの名前を削除します。

注: アダプターを取り外すことによって、システム・リソースが解放されます。従来型の ISA アダプターを取り外す場合には、装置構成ユーティリティを使用して、使用していたリソースを[使用可]に設定しなければなりません。詳細については、63ページの第7章、『取付けの完了』を参照してください。

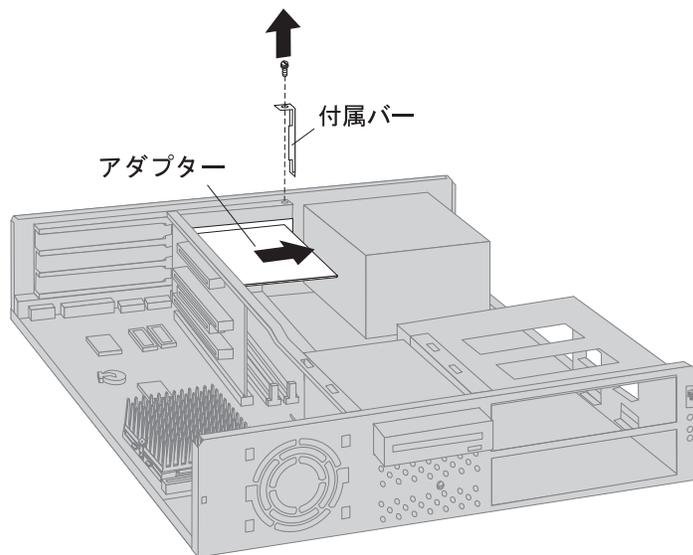
次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

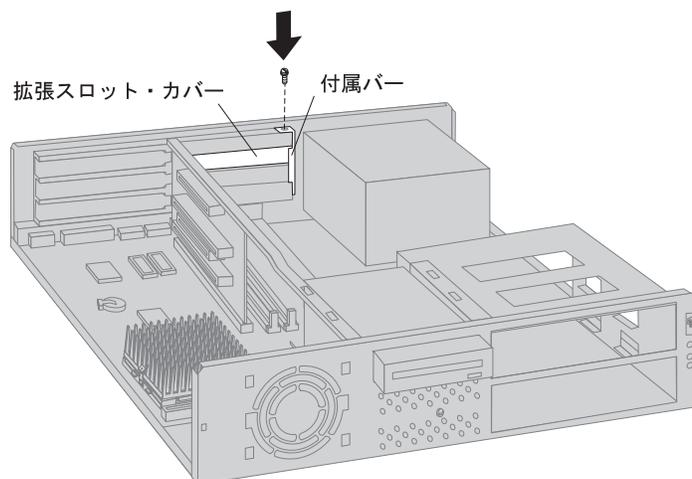
## スロット 4 からのアダプターの取外し

- 1 ねじと付属バーを外し、アダプターを取り外します。下図は、取り外したアダプターを示しています。



- 2 ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、取り外したアダプターの名前を削除します。

- 3** このスロットに別のアダプターを取り付ける必要がない場合には、拡張スロット・カバーと付属バーを取り付けます。下図は、取り付けた拡張スロットのカバーを示しています。



**注:** アダプターを取り外すことによって、システム・リソースが解放されます。従来型の ISA アダプターを取り外す場合には、装置構成ユーティリティを使用して、使用していたリソースを[使用可]に設定しなければなりません。詳細については、63ページの第7章、『取付けの完了』を参照してください。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。  
取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## 第5章 内蔵ドライブの取扱い

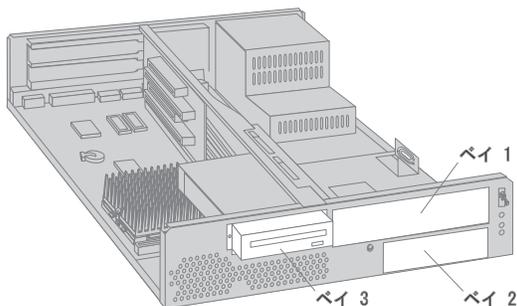
内蔵ドライブは、本製品がデータの読取りや保管に使用する装置です。本製品にドライブを取り付けると、記憶容量を増やしたり、別のタイプの媒体を読み取ったりできるようになります。本製品に使用可能な各種ドライブの例として、ディスケット・ドライブ、ハード・ディスク・ドライブ、CD-ROM ドライブ、およびテープ・ドライブがあります。

内蔵ドライブは、本製品の前面にあるベイに取り付けられます。本書では、これらのベイを、ベイ 1、ベイ 2、というように表記します。モデル 6272 のベイ 1 は 5.25 インチ用、ベイ 2 および 3 は 3.5 インチ用のドライブ・ベイです。モデル 6282 では、ベイ 1 および 2 は 5.25 インチ用、ベイ 3 および 4 は、3.5 インチ用のドライブ・ベイです。

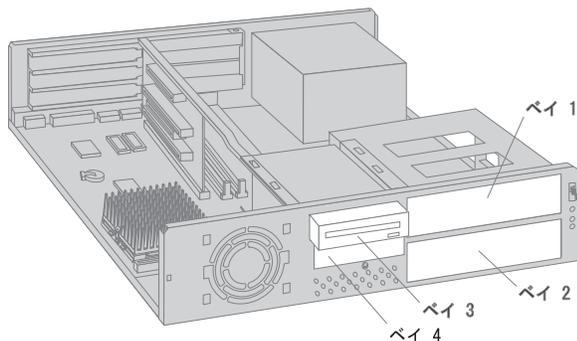
注： 変換キットを使用すると、5.25 インチ・ベイに 3.5 インチ・ドライブを取り付けることができます。詳細については、販売店または IBM の特約店にお尋ねください。

本製品には、内蔵ドライブが標準装備されています。モデル 6272 では、ハード・ディスク・ドライブがベイ 2 に、また、ディスケット・ドライブがベイ 3 に、それぞれあらかじめ取り付けられています。モデル 6282 では、ディスケット・ドライブがベイ 3 に、また、ハード・ディスク・ドライブがベイ 4 に、それぞれ、あらかじめ取り付けられています。

下図は、本製品のドライブ・ベイの位置を示しています。



モデル 6272



モデル 6282

## ドライブ仕様

次の表には、各ベイに取り付けることができるドライブと、その高さが示されています。

表 1. モデル 6272 のドライブ仕様

ベイ	ドライブ <sup>2</sup>	最大の 高さ	最小の 高さ
1	5.25 インチ・ドライブ 3.5 インチ・ドライブ <sup>3</sup>	4.06 cm	2.54 cm
2	3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブ	2.54 cm	-
3	3.5 インチ・ディスケット・ドライブ	2.54 cm	-

表 2. モデル 6282 のドライブ仕様

ベイ	ドライブ <sup>2</sup>	最大の 高さ	最小の 高さ
1 および 2	5.25 インチ・ドライブ 3.5 インチ・ドライブ <sup>3</sup>	4.06 cm	2.54 cm
3	3.5 インチ・ディスケット・ドライブ	2.54 cm	-
4	3.5 インチ・ディスク・ドライブ	2.54 cm	-

## 電源ケーブルおよび信号ケーブルの認知

本製品では、内蔵ドライブは、ケーブルによって電源機構およびシステム・ボードに接続されます。

**電源ケーブル:** 電源ケーブルは、内蔵ドライブを電源に接続します。これらのケーブルの終端は、プラスチックのコネクターになっています。これらのコネクターにはいくつかのサイズがあります。また、ライザー・カードおよびシステム・ボードに接続される電源ケーブルもあります。

電源コネクターには、P x というラベルが付いています。内蔵ドライブを接続する場合、ディスケット・ドライブには電源コネクター P3 を、その他のタイプの内蔵ドライブには P4、

<sup>2</sup> 取り外し可能な媒体 (ディスケット、テープ、または CD) を必要とするドライブは、モデル 6272 ではベイ 1 に、モデル 6282 ではベイ 1 または 2 に取り付けなければなりません。

<sup>3</sup> 3.5 インチ・ドライブを 5.25 インチ・ドライブ取付け金具に正しく取り付けるには、変換キットを使用する必要があります。詳細については、販売店または IBM 特約店にお尋ねください。

P5、または P6 を使用する必要があります。以下の表を使って、それぞれの電源ケーブルがどこに接続されるものかを判別してください。

表 3. 電源ケーブル

コネクタ	接続点
P1	システム・ボードの主電源コネクタ (P1 と P2 のプラグを並べて差し込みます)
P2	システム・ボードの主電源コネクタ (P1 と P2 のプラグを並べて差し込みます)
P3	3.5 インチ・ディスケット・ドライブ
P4	内蔵ドライブ
P5/P6	内蔵ドライブ
P7/P8	内蔵ドライブ
P9 <sup>4</sup>	システム・ボードの補助 5 ボルト・コネクタ
P10	ライザー・カードの 3.3 ボルト・コネクタ
P11	システム・ボードの 3.3 ボルト・コネクタ
P12 <sup>4</sup>	Wake on LAN 機能付きのアダプター用の補助 5 ボルト・コネクタ

注: システム・ボード上の接続点を識別するには、7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

信号ケーブル: この平らな、幅広のケーブルは、内蔵ドライブをシステム・ボードに接続するものです。信号ケーブルは、**リボン・ケーブル**ともいいます。本製品に付属の信号ケーブルは、2種類あります。

幅の広い方の信号ケーブルは、IDE ドライブ用のケーブルで、システム・ボードに 2 本接続されていますが、以下のようにモデルにより異なります。

- モデル 6272 では、システム・ボード上の 1 次 EIDE コネクタと 2 次 EIDE コネクタに、それぞれ 1 つのドライブを接続するためケーブルが装備されています。
- モデル 6282 では、システム・ボード上の 1 次 EIDE コネクタには、2 つまでのドライブを接続できるケーブルが、また 2 次 EIDE コネクタには、1 つのドライブを接続できるケーブルが、それぞれ装備されています。

注: モデル 6272 に、5.25 インチ・ドライブが取り付けられている場合にはこのドライブを外さないと、1 次または 2 次 EIDE コネクタにケーブルを接続したりすること

<sup>4</sup> 電源コネクタ P9 と P12 は交換できます。これらのコネクタの一方だけがシステム・ボードに接続されます。

はできません。詳細については、49ページの『モデル 6272 からの 5.25 インチ・ドライブの取外し』を参照してください。

幅の狭い方の信号ケーブルは、以下のように、モデルにより異なります。

- モデル 6272 では、このケーブルにはコネクタが 2 つ付いています。1 つはシステム・ボード上のディスク・ドライブ・コネクタに接続するためのものであり、いま 1 つは内蔵ディスク・ドライブに接続するためのものです。
- モデル 6282 では、このケーブルにはコネクタが 4 つ付いています。1 つはシステム・ボード上のディスク・ドライブ・コネクタに接続するためのもので、他の 2 つは内部装置を接続するためのもの、残りの固有なコネクタはアダプター・ストリップまたはその他の特別な接続を持つ装置を接続するためのものです。

注: システム・ボード上のコネクタの位置については、7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

これから、電源および信号ケーブルを内蔵ドライブに接続する際の注意事項を説明します。<sup>5</sup>

本製品に付属しているディスク・ドライブおよびハード・ディスク・ドライブには、電源ケーブルと信号ケーブルがすでに接続されています。また、本製品に CD-ROM ドライブが付属している場合には、ケーブルは接続されています。ドライブを交換する場合には、どのケーブルがどのドライブに接続されていたかを書き留めておいてください。

1 本のケーブル上に複数の IDE 装置を接続する場合には、1 つをマスター装置、もう 1 つをスレーブ装置として設定しなければなりません。そうしないと、IDE 装置のうちいくつかは、システムに認識されない場合があります。マスターまたはスレーブの指定は、各 IDE 装置のスイッチまたはジャンパーの設定によって決めます。また、CD-ROM ドライブが取り付けられている場合には、必ず、CD-ROM ドライブを 2 次 EIDE ケーブルのマスター装置として接続してください。

ドライブを取り付けたときには、必ず、信号ケーブルの終端のドライブ・コネクタをドライブに接続してください。また、もう一方の端のドライブ・コネクタは、システム・ボードに接続してください。こうすると、本体の電子ノイズが少なくなります。

3 つ以上のハード・ディスク・ドライブが取り付けられている時にパフォーマンスを最適化するには、必ずハード・ディスク・ドライブを高速データ転送 (モード 1 以上) で 1 次 EIDE ケーブルに接続してください (ハード・ディスク・ドライブ 0 および 1)。

外付けドライブを接続するには、本製品にアダプターを取り付ける必要があります。

---

<sup>5</sup> 取り付けられている内蔵ドライブの最大数は、モデルにより異なります。詳細については、38ページの『ドライブ仕様』を参照してください。

## モデル 6272 への 3.5 インチ・ドライブの取付け

注: モデル 6272 は、2 つの 3.5 インチ・ドライブ・ベイに内蔵ドライブがすでに取り付けられていますので、この項では、ドライブの取外しおよび新しいドライブとの交換方法の手順について説明します。

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うドライブに付属している説明書をお読みください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

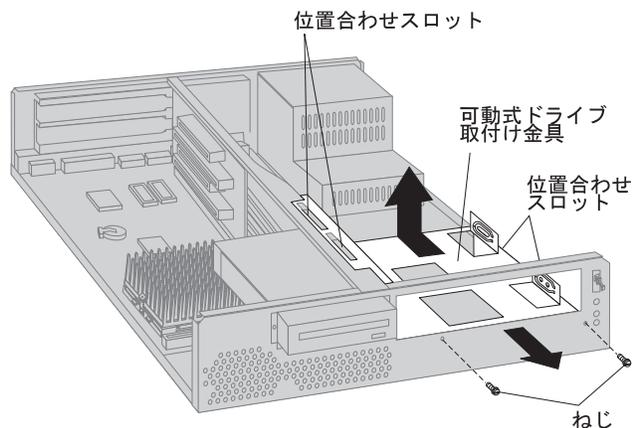
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

使用するドライブを確認してください。ベイ 2 を使用したい場合には、42ページの『ベイ 2 へのドライブの取付け』に進んでください。ベイ 3 を使用したい場合には、45ページの『ベイ 3 へのドライブの取付け』に進んでください。別のベイの位置を確認するためには、37ページを参照してください。

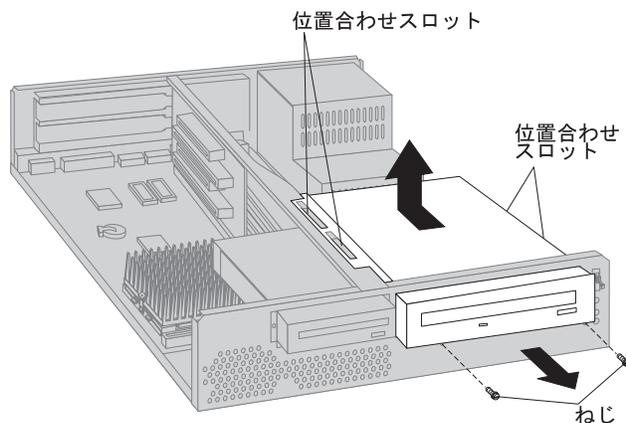
## ベイ 2 へのドライブの取付け

### 1 次のうちのいずれかを行ってください。

- a. ベイ 1 にドライブが入っていない場合には、ベイ 2 のドライブに接続されているケーブルを取り外します。次に、前面にあるねじを外し、ドライブ取付け金具を後方へスライドさせて位置合わせスロットから取り外します。取付け金具を上方に持ち上げて、本体から取り外してください。

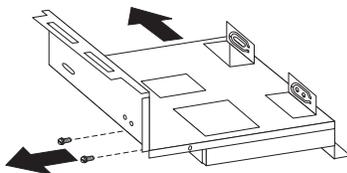


- b. ベイ 1 にドライブが入っている場合には、そのドライブに接続されているケーブルを取り外します。次に、前面にあるねじを取り外し、ドライブ取付け金具を後方へスライドさせて位置合わせスロットから取り外します。



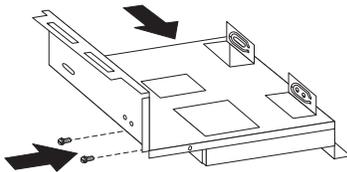
取付け金具を上方に持ち上げて本体から取り外し、次に、ベイ 2 のドライブに接続されている電源ケーブルと信号ケーブルを取り外します。

**2** ねじを外し、ドライブをスライドさせて取付け金具から取り外します。



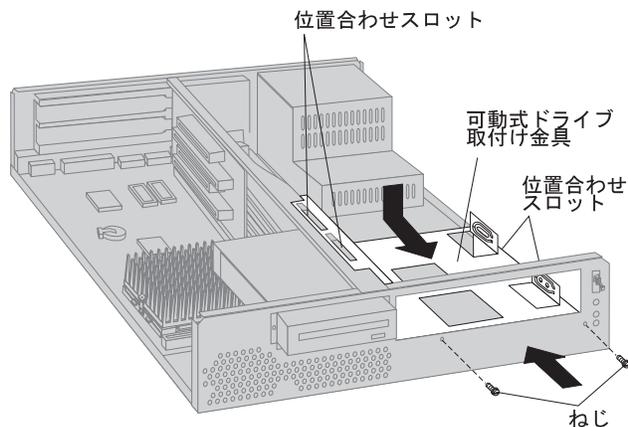
**3** 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを袋から取り出します。

**4** 新しいドライブをドライブ取付け金具に付け、ねじを差し込んで締めます。

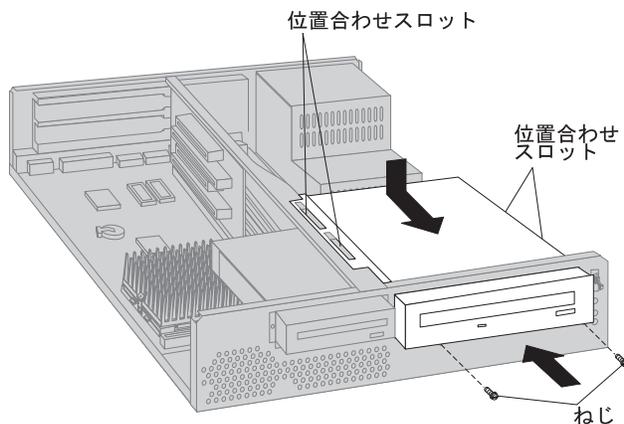


## 5 次のうちのいずれかを行ってください。

- a. ベイ 1 にドライブが入っていない場合には、ドライブ取付け金具を本体に付け、前方にスライドさせて、再度取り付けます。取付け金具が位置合わせスロットの所定の位置に収まっているか確認してください。ねじを差し込んで締め、電源ケーブルと信号ケーブルをベイ 2 のドライブに接続します。



- b. ベイ 1 にドライブが入っている場合には、電源ケーブルと信号ケーブルをベイ 2 のドライブに接続し、次いで、ドライブ取付け金具を本体に付け、前方にスライドさせて再度取り付けます。取付け金具が位置合わせスロットの所定の位置に収まっているか確認してください。ねじを差し込んで締め、電源ケーブルと信号ケーブルをベイ 1 のドライブに接続します。



## 次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブに関して記録します。

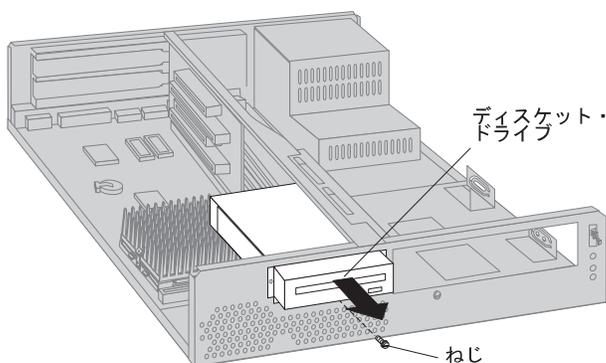
ベイ 3 にドライブを取り付ける場合は、『ベイ 3 へのドライブの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

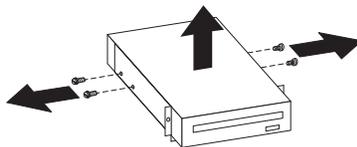
取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## ベイ 3 へのドライブの取付け

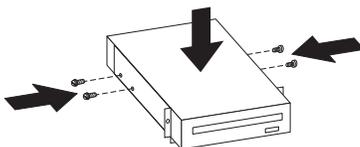
- 1 ベイ 3 のドライブに接続されている信号ケーブルと電源ケーブルを取り外します。
- 2 前面にあるねじを外し、ベイ 3 を収容している取付け金具を前方にスライドさせて本体から取り外します。



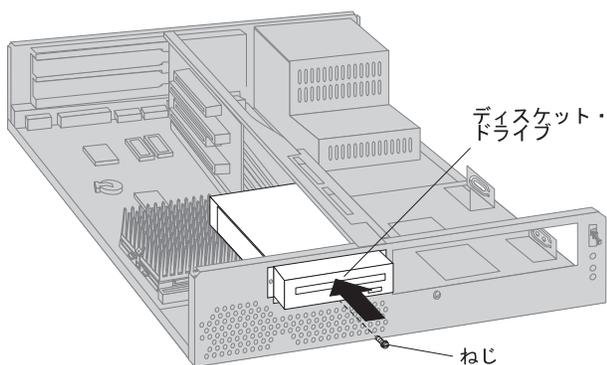
- 3 ねじを外し、ドライブを上方に持ち上げて取付け金具から取り外します。



- 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを袋から取り出します。
- 新しいドライブをドライブ取付け金具に付け、ねじを差し込んで締めます。



- ドライブ取付け金具を元どおりにスライドさせて本体にはめこんで、再度取り付けます。ねじを差し込んで締めます。下図は、再度取り付けたドライブ取付け金具を示しています。



- 電源ケーブルと信号ケーブルを、本体のすべてのドライブに接続します。

#### 次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブに関して記録します。

ベイ 2 にドライブを取り付ける場合は、42ページの『ベイ 2 へのドライブの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## モデル 6272 への 5.25 インチ・ドライブの取付け

注:

1. 下記の手順は、ドライブを取り付けるためのものです。ドライブを交換したい場合には、49ページの『モデル 6272 からの 5.25 インチ・ドライブの取外し』を参照してください。
2. 3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 1 に取り付けるためには、変換キットを取り付ける必要があります。5.25 インチ・ベイ用の 3.5 インチ変換キットの購入方法の詳細については、販売店または IBM 特約店までご連絡ください。

作業を始める前に

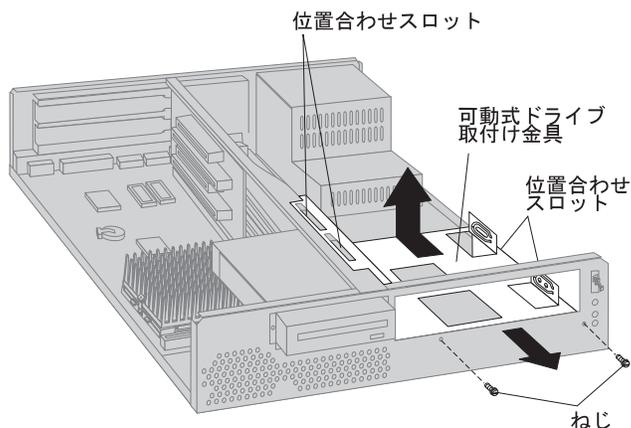
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うドライブに付属している説明書をお読みください。

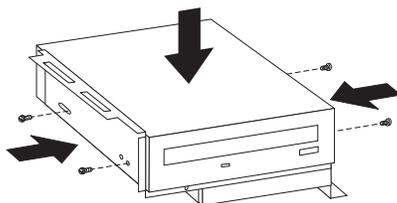
本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピュータに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

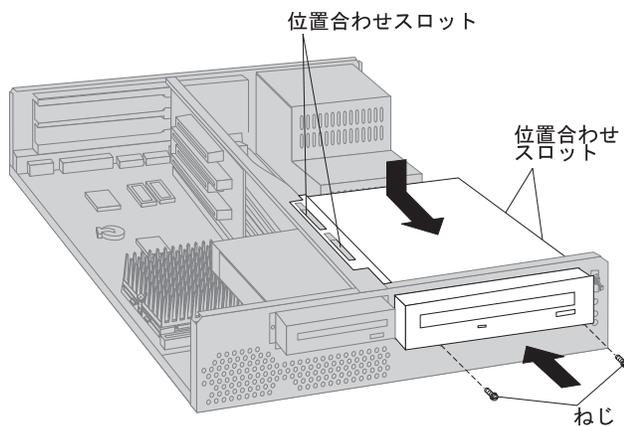
- 1 ベイ 2 にドライブが取り付けられている場合には、接続されているケーブルをすべて取り外します。
- 2 前面にあるねじを取り外し、ベイ 1 および 2 を収容している取付け金具を前方にスライドさせて位置合わせスロットから取り外します。取付け金具を上方に持ち上げて、本体から取り外してください。



- 3** 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを袋から取り出します。
- 4** ドライブを取付け金具に入れ、ねじを差し込み、締めます。



- 5** 電源ケーブルと信号ケーブルを、ベイ 2 のドライブに接続し、ドライブ取付け金具を本体に付け、前方にスライドさせて再度取り付けます。取付け金具が位置合わせスロットの下の所定の位置に収まっているか確認してください。ねじを差し込んで締めます。下図は、再度取り付けられた後のドライブ取付け金具を示しています。



- 6** 電源ケーブルと信号ケーブルを、ベイ 1 のドライブに接続します。

次の手順

ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブを記録します。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、「取付けの完了」に進みます。

## モデル 6272 からの 5.25 インチ・ドライブの取外し

作業を始める前に

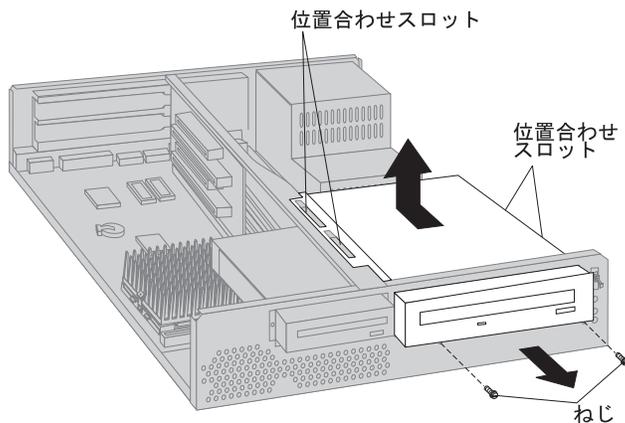
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取り外したドライブを保管するための静電気防止袋を用意してください。

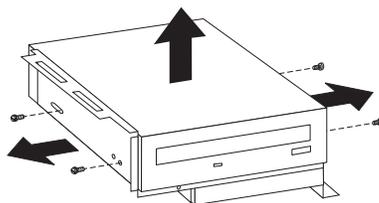
本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 ベイ 1、2、および 3 のドライブに接続されているケーブルがあれば、すべて取り外します。
- 2 前面にあるねじを取り外し、ベイ 1 および 2 を収容している取付け金具を前方にスライドさせて位置合わせスロットから取り外します。取付け金具を上方に持ち上げて、本体から取り外してください。



- 3 ベイ 1 のドライブに接続されているケーブルを取り外します。
- 4 4 つのねじを緩めて外し、ドライブを取り外します。

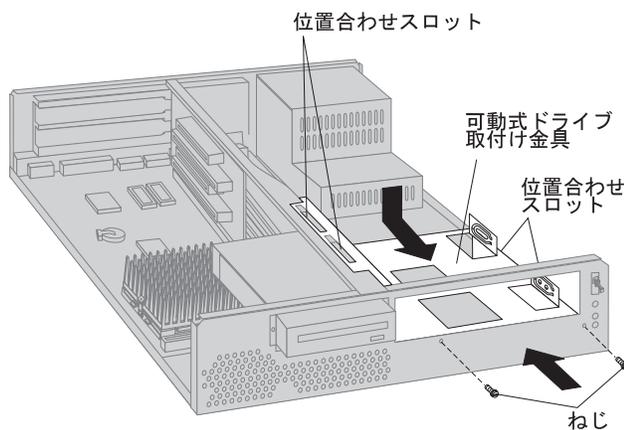


**5** 取り外したドライブを静電気防止袋に入れます。

注: 取り外したドライブを新しいドライブと交換しようとする場合には、ステップ 3 (48ページ) に進んでください。

**6** 電源ケーブルと信号ケーブルを、ベイ 2 のドライブに接続します。

**7** ドライブ取付け金具を本体に入れ、前方にスライドさせて、再度取り付けます。取付け金具が位置合わせスロットの所定の位置に収まっているか確認してください。ねじを差し込んで締めます。下図は、再度取り付けたドライブ取付け金具を示しています。



次の手順

ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、変更されたドライブに関して記録します。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## モデル 6282 へのドライブの取付け

注:

1. 下記の手順は、ドライブを取り付けるためのものです。ドライブを交換したい場合には、55ページの『モデル 6282 からのドライブの取外し』を参照してください。
2. 3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 1 または 2 (5.25 インチ・ベイ) に取り付けるためには、変換キットを取り付ける必要があります。5.25 インチ・ベイ用の 3.5 インチ変換キットの購入方法の詳細については、販売店または IBM 特約店までご連絡ください。

作業を始める前に

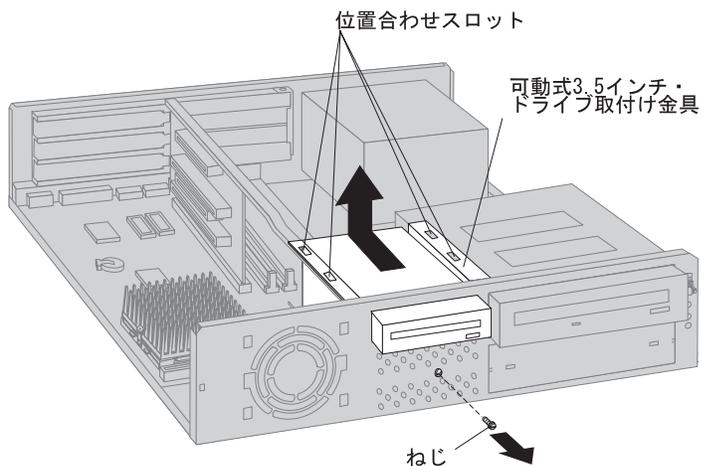
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取り付けたいドライブに付属している説明書をお読みください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

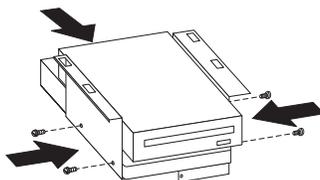
- 1** 3.5 インチ・ドライブ取付け金具に入っているドライブに接続されているケーブルを取り外します。
- 2** 3.5 インチ・ドライブ取付け金具を本体フレームに取り付けているねじを外します。このねじは、本体フレームの前面中央に付いています。ドライブ取付け金具を後方にそっとずらして、位置合せスロットから外し、ドライブ取付け金具を持ち上げて本体から外してください。



**3** 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを袋から取り出します。

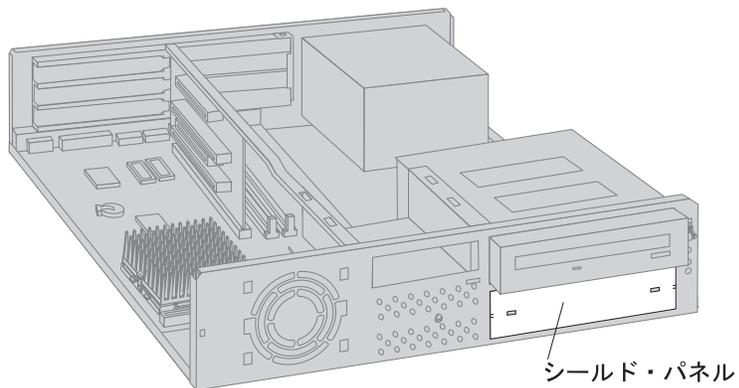
**4** 次のうちのいずれかを行ってください。

- a. 3.5 インチ・ドライブ取付け金具にドライブを取り付ける場合は、ドライブを希望のドライブ・ベイに入れ、ねじを差し込んで締めます。下図は、ベイ4に取り付けたドライブを示しています。

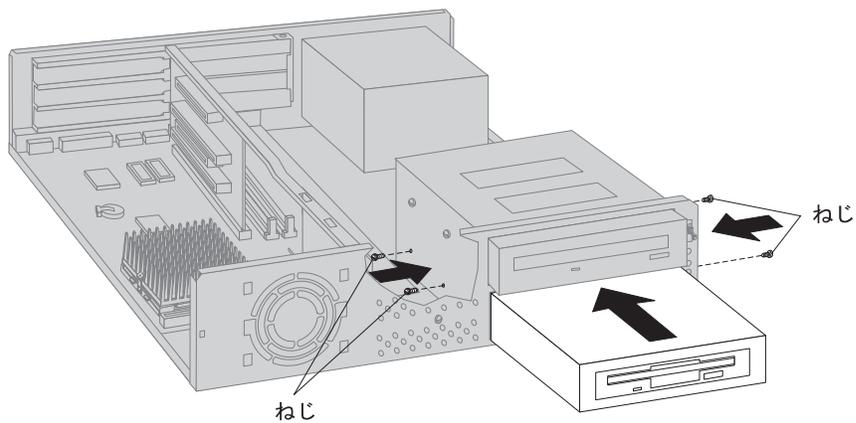


b. 5.25 インチ・ドライブ取付け金具にドライブを取り付ける場合:

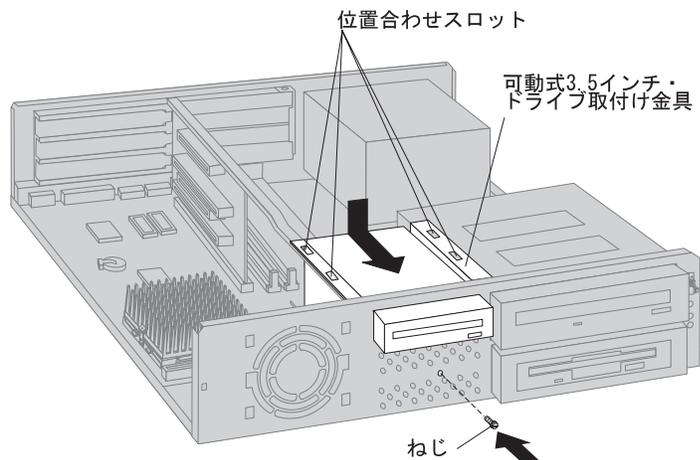
該当する場合は、該当のドライブ・ベイの金属製のシールド・パネルを取り外します。



希望のドライブ・ベイにドライブを入れ、ねじを差し込み、締めます。下図は、ベイ 2 に取り付けられたドライブを示しています。



- 5 ドライブをもう 1 つ取り付けたい場合は、ステップ 3 および 4 を繰り返して、取り付けます。
- 6 3.5 インチ・ドライブ取付け金具を本体に入れ、前方にスライドさせて、取り付けます。ねじを差し込み、締めます。下図は、再度取り付けられた後の 3.5 インチ取付け金具を示しています。



- 7 電源ケーブルと信号ケーブルを、本体のすべてのドライブに接続します。

— 次の手順 —

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブに関して記録します。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## モデル 6282 からのドライブの取外し

作業を始める前に

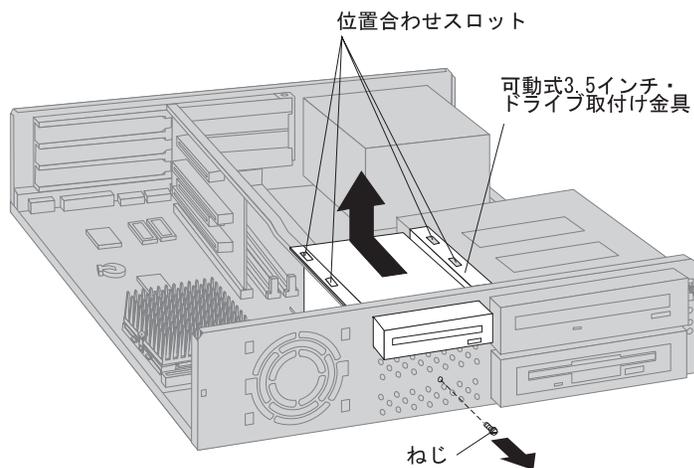
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取り外したドライブを保管するための静電気防止袋を用意してください。

本製品および接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

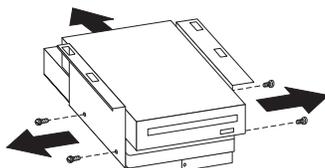
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1** 3.5 インチ・ドライブ取付け金具に入っているドライブに接続されているケーブルを取り外します。
- 2** 3.5 インチ取付け金具を本体フレームに取り付けているねじを取り外します。このねじは、本体フレームの前面中央に付いています。ドライブ取付け金具を後方にそっとずらして、位置合わせスロットから取り外し、ドライブ取付け金具を持ち上げて、本製品から取り外してください。

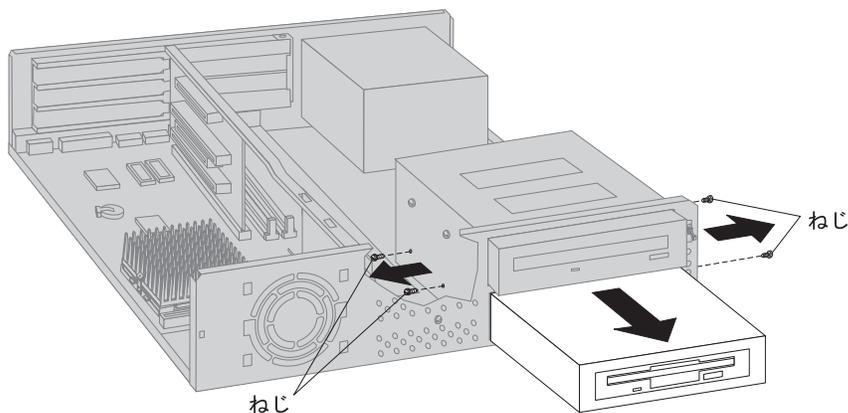


### 3 次のうちのいずれかを行います。

- a. 3.5 インチ・ドライブ取付け金具からドライブを取り外す場合は、ねじを緩めて取り外し、ドライブを取り外します。下図は、ベイ 4 から取り外したドライブを示しています。



- b. 5.25 インチ・ドライブ取付け金具からドライブを取り外す場合は、ドライブに接続されているケーブルをすべて取り外します。次に、ねじを緩めて取り外してから、ドライブを前方にスライドさせます。下図は、ベイ 2 から取り外したドライブを示しています。

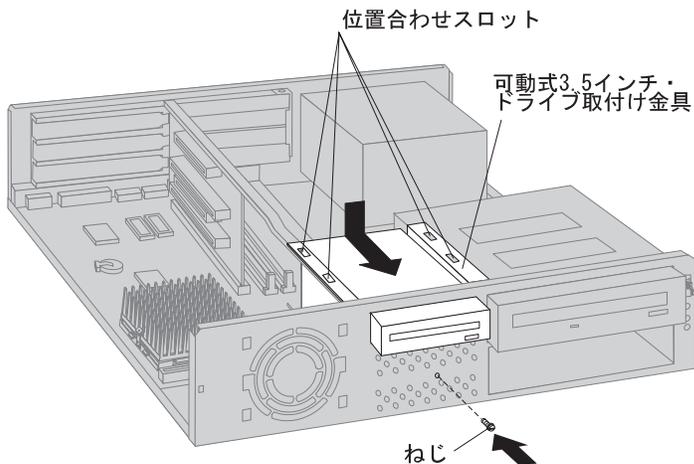


### 4 取り外したドライブを使用する予定がない場合には、そのドライブを静電気防止袋に入れます。

注: 取り外したドライブを新しいドライブと交換しようとする場合には、ステップ 3 (52ページ) に進んでください。

### 5 別のドライブを取り外す場合は、ステップ 3 と 4 を繰り返してください。

- 6** 3.5 インチ・ドライブ取付け金具を本体に入れ、前方にスライドさせて、取り付けます。本体フレームの前面にねじを差し込み、締めます。下図は、再度取り付けられた後の3.5 インチ取付け金具を示しています。



- 7** 電源ケーブルと信号ケーブルを、取り付けられているドライブすべてに接続します。

次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、ドライブの取外しを記録します。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

## 第6章 機密保護オプションの取扱い

この章では、本製品で使用可能な機密保護オプションのいくつかについて説明します。

パスワードを忘れてしまった場合には、システム・ボード上の CMOS クリアー (パスワード) ジャンパーを移動することにより、パスワードを消去することができます。

注: パスワードの設定、変更、削除には、装置構成ユーティリティを使用します。詳細については、*ユーザズ・ガイド* を参照してください。

ディスクットへの書込みを防止するためには、書込み禁止スイッチをシステム・ボードに設定することができます。

上記の手順の早見表として、次のリストを示します。

59ページの『わからなくなったパスワードの消去』

62ページの『ディスクット書込み禁止スイッチの設定』

### 重要

CMOS クリアー・ジャンパーを移動したり、電池を交換すると、コンピューターの省略時設定が復元されます。そのため、省略時設定に含まれない構成設定は消去されます。前述の行為のいずれかを行った後で、装置構成ユーティリティを使用して省略時設定を保存するか、あるいは再構成してその他の設定を保存する必要があります。

ご使用のモデルがイーサネット・ポート標準装備の場合には、コンピューターの基本始動順序の設定が工場出荷時に変更されていることに注意してください。これらの工場設定は、本体の省略時 (デフォルト) 設定ではありません。CMOS クリアー・ジャンパーを移動したり、電池を交換した場合、工場設定は、省略時設定が復元された時点で消去されます。装置構成ユーティリティを使用して、これらの値をリセットする必要があります。本体の始動順序の工場設定および省略時設定の詳細については、*ユーザズ・ガイド* を参照してください。

---

## わからなくなったパスワードの消去

注: パスワードの設定、変更、または削除を行う場合には、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

本製品は、システム・ボード上の *CMOS* メモリーを、装置構成情報の保管に使用しています。CMOS メモリーは、次のものに関する情報を保持します。

- 日付と時刻
- 機密保護機能
- 電源管理装置
- 記憶装置
- キーボードとマウス
- 従来型 ISA 構成情報
- プラグ・アンド・プレイ構成情報
- ポートの割当て
- I/O アドレスと割込み
- その他の選択可能な機能

### 重要

CMOS メモリーをクリアすると、本製品の構成が消去されます。CMOS メモリーをクリアした後で本製品を再構成する必要があるため、CMOS ジャンパーを変更する *前に*、本製品の構成情報を記録しておいてください。

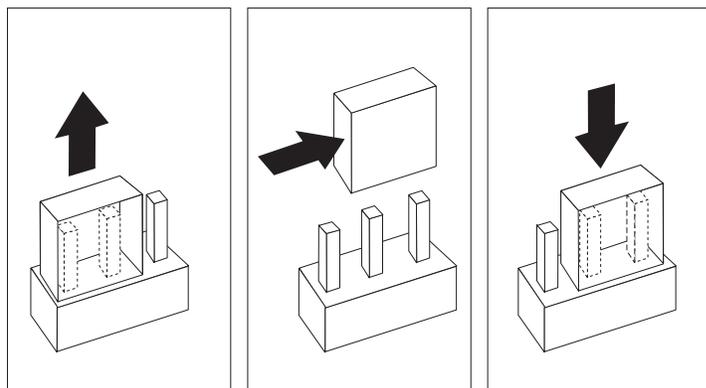
機密保護機能には、始動パスワードと管理者パスワードの設定が含まれています。わからなくなったパスワードを消去する必要がある場合は、CMOS メモリーに割り当てられているジャンパーを移動させることにより、装置構成情報をすべて消去しなければなりません。

CMOS クリアー・ジャンパーの位置を確認するためには、7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照するか、もしくは本製品カバーの裏側に付いているラベルを参照してください。カバー・ラベルでは、このジャンパーをパスワード・ジャンパー (*password jumper*) としています。

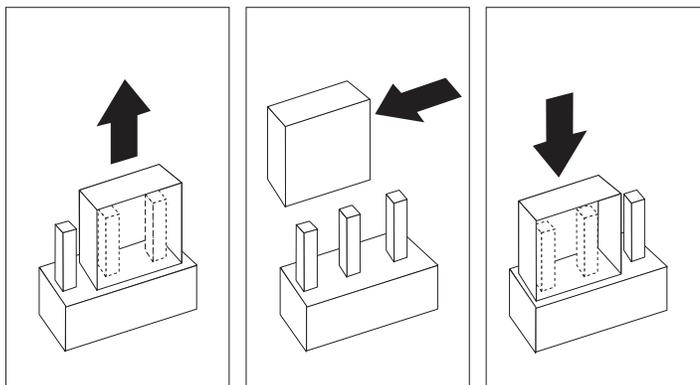
## 作業を始める前に

装置構成ユーティリティを使用して、すべての構成情報を記録してください。  
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。  
58ページの「重要」枠の内容をお読みください。  
本体の電源をオフにしてください。  
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、本製品のカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。電源コードが接続されていると、CMOS は消去されませんので必ず、取り外してください。

- 1 必要に応じて、ドライブ取付け金具とライザー・カードを取り外します。
- 2 システム・ボード上で CMOS クリアー・ジャンパーを位置を確認します。詳細については、7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照するか、あるいは本体カバーの裏側に貼ってあるラベルを参照してください。このラベルでは、ジャンパーをパスワード・ジャンパー (password jumper) としています。
- 3 ジャンパーを通常のピンの位置 (1 および 2) からピン 2 および 3 に動かします。ジャンパーを動かすには先端のとがったペンチを使用すると便利ですが、システム・ボード構成部品をこすったり、ジャンパーをつぶさないように注意してください。



- 4** 1分ほどたったら、ジャンパーを通常の位置（ピン1および2）に戻します。これで、CMOSメモリーがクリアされます。



— 次の手順 —

CMOSメモリーをクリアした後で、本製品を再構成しなければなりません。本製品を組み立て直して（63ページの第7章、『取付けの完了』に進む）から、装置構成ユーティリティを使用して、日付と時刻のリセット、パスワードの再設定、および本製品の再構成を行ってください。装置構成ユーティリティの使用法の詳細については、*ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

## ディスク書き込み禁止スイッチの設定

ディスク書き込み禁止スイッチは、ディスク・ドライブでディスクに情報を書き込むことができるかどうかを制御します。ネットワークを介して入手できる情報の機密保護に注意をはらう必要がある場合には、ディスクへの書き込み防止機能は特に有用です。

注: このスイッチはディスクからのデータ読取り機能には影響しません。

### 作業を始める前に

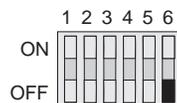
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

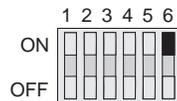
本製品に接続されているすべての外部ケーブルを取り外し、本体のカバーを取り外してください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 システム・ボード上の構成スイッチの位置を確認します。詳細については、本体カバーの裏側に貼ってあるラベルを参照するか、あるいは7ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。
- 2 通常のディスクの操作または読取り専用ディスクの操作では、スイッチ6を下図のように設定します。このスイッチの設定には、小さなねじ回しの先端を使用すると便利です。

通常のディスク操作



読取り専用ディスク操作



### 次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

---

## 第7章 取付けの完了

オプションを取り付けた後で、取り外したパーツを取り付け、カバーを元どおりに取り付け、ドライブ・ケーブルを再接続し、電源コードや電話線を始めとしてあらゆる外付けケーブルを再接続する必要があります。また、取り付けられたオプションによっては、装置構成ユーティリティーの情報を更新しなければならない場合もあります。

上記の手順の早見表として、次のリストを示します。

64ページの『ベイ・パネルの取外し』

65ページの『カバーの再取付けとケーブルの接続』

67ページの『装置構成の更新』

## ベイ・パネルの取外し

次の場合には、ベイ・パネルを取り外す必要があります。

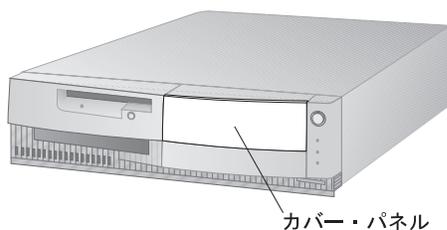
モデル 6272 のベイ 1 にアクセス可能な媒体をもつドライブを取り付けてある場合

モデル 6282 をベイ 1 またはベイ 2 にアクセス可能な媒体をもつドライブを取り付けてある場合

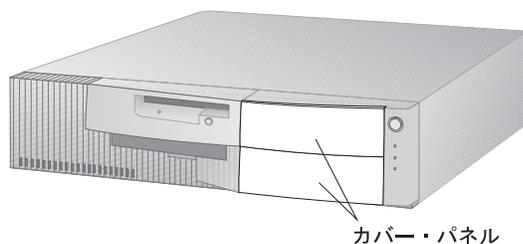
本製品では、これらのベイの 1 つにあらかじめドライブが取り付けられている場合があります。その場合、ベイ・パネルがあらかじめ取り外されていることがあります。

ベイ・パネルは、本体の前面から簡単に取り外せます。

以下の図は、本体に付属してくると考えられるベイ・パネルを示しています。



モデル 6272



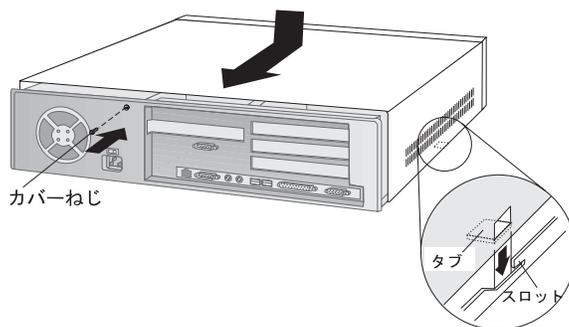
モデル 6282

## カバーの再取付けとケーブルの接続

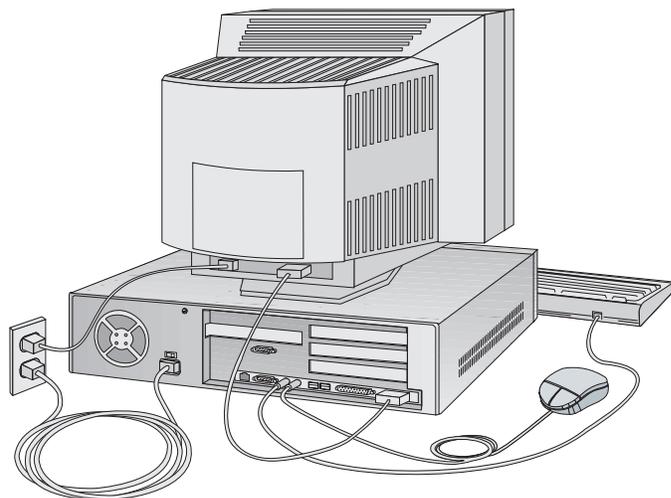
作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

- 1 すべての構成部品が正しく組み立て直されており、本製品の内側にツールやねじが残っていないか確認してください。
- 2 カバーの再取付けの邪魔になるケーブルをどけてください。
- 3 以下の図に示されているとおり、本製品フレームにカバーを置きます。カバー・リリース・ラッチがカバーの背面にかかるまでカバーを前方にスライドさせ、動かないようにします。



- 4** 外部ケーブルとコードを本製品に再接続してください。詳細については、*セットアップ・ガイド*を参照してください。



- 5** 本製品にモデムやファクス機器を接続している場合は、壁のモジュラー・ジャックと本体に電話線を接続し直します。電源コードを正しく接地された電源コンセントに差し込みます。

## 装置構成の更新

### 重要

装置構成ユーティリティの使用法の詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

また、構成設定を更新した後でデバイス・ドライバーを導入しなければならない場合があります。詳細については、オプションに付属の説明書を参照し、デバイス・ドライバーが必要かどうかや、その導入方法を判別してください。また、デバイス・ドライバーは、サポート CD に入っています。

オプションの追加、除去、または交換の後、構成設定を更新しなければなりません。この構成は本製品で自動的に実行することもできますが、*手動でも実行できます*。本製品がオプションを自動的に構成する場合は、システム・プログラムを使用します。システム・プログラムが設定を更新しない場合には、装置構成ユーティリティを使用して、適切な設定を再構成することができます。

たとえば、ほとんどの内蔵ハード・ディスク・ドライブを増設した後で本製品を始動すると、設定は自動的に更新されるので、装置構成ユーティリティを使用してそれらの変更内容を保管してください。ただし、従来型 ISA アダプターの取付けまたは取外し後にリソース競合が発生した場合は、構成を手動で更新し、その情報を保管する必要があります。

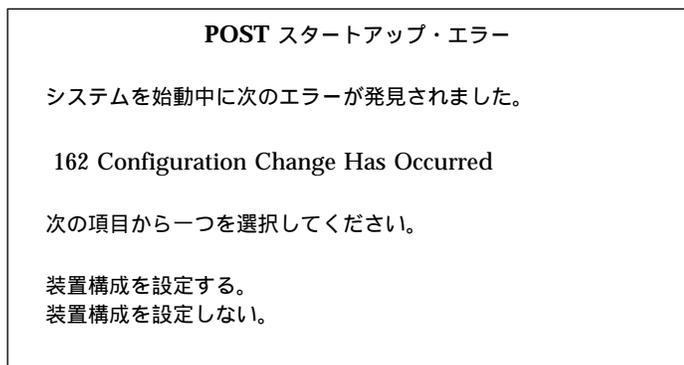
注:

1. 次のステップのいずれかを実行する前に、カスタマイズした設定をすべて記録してください。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

## 装置構成ユーティリティーの開始

ほとんどのオプションを取り扱った後で初めてコンピューターを再始動させると、構成変更が発生したことを知らせるメッセージが表示されます。次に、構成設定を手動で更新するか、あるいはシステム・プログラムによって自動的に更新された設定を確認して保管するか、装置構成ユーティリティーに入力するよう求めるプロンプトが表示されます。

オプションを変更してコンピューターを再始動すると、次の画面が表示されます。



注: 発生した構成変更によっては、ここに示されているのとは別のエラー・メッセージが表示される場合があります。

上記画面が表示された場合は、装置構成ユーティリティー・メニューが表示されるまで装置構成を設定するを選択します。

上記画面が表示されない場合は、以下の手順に従って、装置構成ユーティリティー・メニューに進みます。

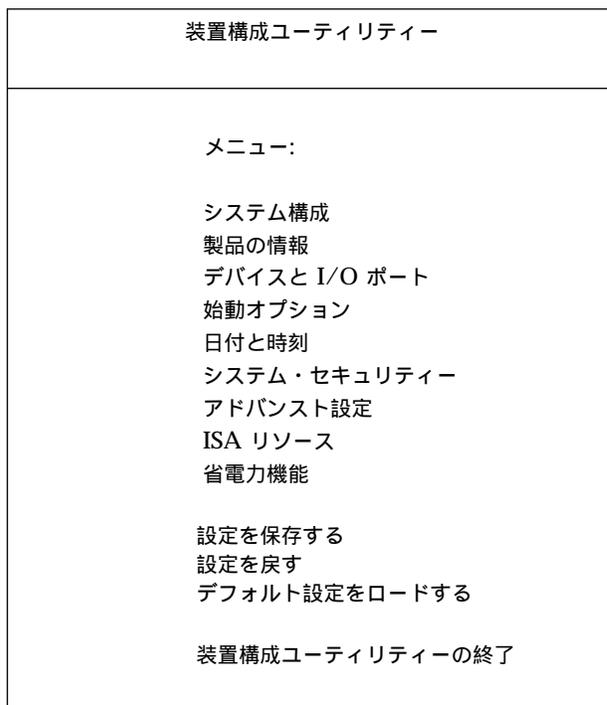
装置構成ユーティリティにアクセスする場合：

**1** 本製品の電源をオンにします。

本製品の電源がすでにオンになっている場合には、オペレーティング・システムを遮断して本体の電源をオフにし、2、3秒待ってから、再始動してください。本体を再始動するのに、**Ctrl+Alt+Del** を使用しないでください。

**2** 画面の下端左隅に装置構成ユーティリティのプロンプトが表示されているときに、**F1** を押します。

- a. 管理者パスワードを設定していない場合には、装置構成ユーティリティ・メニューが現れます。管理者パスワードを設定してある場合には、その管理者パスワードをタイプして、**Enter** を押してください。
- b. 管理者パスワードと始動パスワードの両方を設定してある場合には、パスワード・プロンプトにそのどちらでもタイプすることができます。ただし、始動パスワードをタイプした場合、装置構成ユーティリティの限定された情報を表示することはできませんが、設定を変更することはできません。装置構成ユーティリティの設定を変更するためには、パスワード・プロンプトに管理者パスワードをタイプしてください。



注: 本製品の画面に表示されるメニューは、ここに示されているのと多少異なっている場合がありますが、機能は同じです。

## 設定の変更と終了

装置構成ユーティリティ・メニューで、変更内容を表示して保管することにより、変更内容を受け入れることができますが、手動によって変更を行い、その設定を保管することもできます。

装置構成ユーティリティ内の記号を識別するための早見表を以下に示します。キーの機能については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

メニュー項目の横に中黒 ( ) が表示されている場合は、追加メニューが使用可能です。

大かっこ ([ ]) で囲まれているほとんどの情報が変更可能です。[ ] で囲まれている情報は変更できません。

メニュー項目の横に右向き矢印 ( ) が付いている場合は、そのカテゴリで構成変更があったことを表しています。は、後続のメニューに表示されることもあります。

アスタリスク (\*) がメニュー項目の横に表示されている場合は、リソース競合が検出されています。

変更を完了するか、あるいは情報の表示が済んだら、装置構成ユーティリティ・メニューに戻り、「設定を保存する」を選択して、変更内容を保管してください。この位置で、装置構成ユーティリティを終了することができます。

装置構成ユーティリティを終了するためには、次の手順に従ってください。

- 1 装置構成ユーティリティ・メニューから、**Esc** キーを押します。
- 2 「セットアップの終了」メニューが表示されます。変更内容を保管することもできますが、変更内容を保管せずに装置構成ユーティリティを終了することもできます。あるいは、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ることもできます。矢印キーを使用して望みのオプションを選択し、**Enter** キーを押します。

## 従来型 ISA アダプターの構成

従来型 ISA アダプターを構成するためには、アダプターのスイッチまたはジャンパーの設定値を変更しなければならない場合があります。また、装置構成ユーティリティーを使用してメモリー位置、入出力割当て、DMA および割込み指定といった従来型 ISA リソース情報の設定も必要です。

注: 必要なリソースおよびスイッチ設定の詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。従来型リソース設定は、アダプターを装着する前に行なってください。

取り付けられているアダプターに合った従来型リソース情報を設定するためには、次のように行います。

- 1** 装置構成ユーティリティーを開始します (68ページの『装置構成ユーティリティーの開始』を参照)。
- 2** 「装置構成ユーティリティー」メニューから「ISA リソース」を選択します。
- 3** 必要に応じて、「メモリー・リソース、I/O ポート・リソース、DMA リソース」または「割込みリソース」を選択します。
- 4** 該当するリソースを「ISA で使用中」に設定します。
- 5** 装置構成ユーティリティーを終了するときには、変更内容を必ず保管してください。

従来型 ISA アダプターを取り外した場合は、使用されなくなったシステム・リソースを「使用可」にリセットしなければなりません。これを行うには、上記の手順に従い、ステップ 4 で「使用可」を選択します。

注: アダプターおよび競合の解決の詳細については、27ページの『アダプター構成』および 75ページの付録B、『割込みリソースと DMA リソース』を参照してください。

## 付録A. 電池の交換

この付録には、コンピューターの電池の取扱いと交換に関する情報が記載されています。システム・ボードのソケットに取り付けられているリチウム電池は、リアル・タイム・クロックおよび CMOS メモリーに電力を供給しています。電池が消耗し始めると、電圧が下がります。電圧が一定値以下に下がると、CMOS メモリーに格納されているシステム設定値 (たとえば、日付や時刻など) に誤りが生じる場合があります。電池に不具合が生じる場合は、同等な電池と交換してください。

### ⚠ 危険

交換用電池に取り扱い上の注意や取り付けの指示が書かれていれば、それに従う。

電池を正しく交換しないと、破壊する危険があります。

電池にはリチウムが含まれており、正しい方法で使用、取り扱い、または廃棄しないと発熱、発火、破裂のおそれがあります。

電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池、またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。次の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。

電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店および弊社の営業担当員までお問い合わせください。

本体、プリンターなどの装置の電源を切る。

電源コードおよび外部ケーブルをすべて切り離してから、コンピューター・カバーを取り外す (詳細は、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

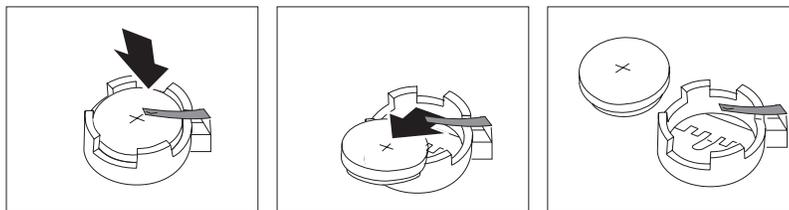
58ページの「重要」枠の内容をお読みください。

交換用電池に付属の資料をお読みください。

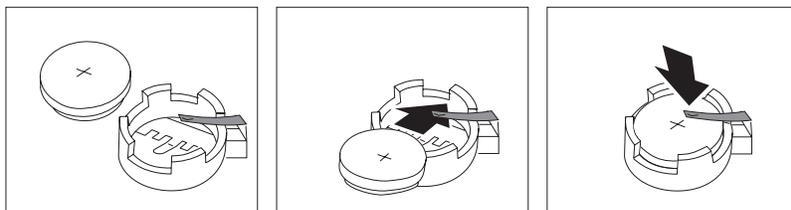
本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

本製品に接続されているすべての外部ケーブルを取り外し、本製品カバーを取り外してください（補足情報については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください）。

- 1 システム・ボード上の電池の位置を確認します。
- 2 必要に応じて、電池を扱うのに邪魔になるアダプターがあれば取り外します。手順については、33ページの『アダプターの取外し』を参照してください。
- 3 vページの『安全に正しくお使いいただくために』に目を通します。
- 4 古い電池を、以下の図に示されているとおりに外します。



**5** 新しい電池を、以下の図に示されているとおりに取り付けます。



注： 電池の交換後本体の電源を初めてオンにしたときは、エラー・メッセージが表示される場合があります。これは、電池の交換後では問題ありません。

— 次の手順 —

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。  
交換を完了するためには、63ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。  
装置構成ユーティリティーを使用して、日付と時刻、パスワードといった構成値をリセットします。  
古い電池を、地域の条例や規制に準じて廃棄します。

## 付録B. 割り込みリソースと DMA リソース

この付録には、本製品の省略時の割り込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースをリストしています。

注: 割り込みおよび DMA の設定値は、構成制御のもとで変更することができます。

割り込み要求	システム・リソース
0	タイマー
1	キーボード
2	インターラプト・コントローラー
3 <sup>6</sup>	シリアル・ポート B
4 <sup>6</sup>	シリアル・ポート A
5	使用可
6 <sup>6</sup>	ディスケット
7 <sup>6</sup>	パラレル・ポート
8	リアルタイム・クロック
9	使用可
10	使用可
11	使用可
12 <sup>6</sup>	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14 <sup>6</sup>	取り付けられている場合は、1 次 IDE ドライブ
15 <sup>6</sup>	取り付けられている場合は、2 次 IDE ドライブ

USB ポートは、上記 "使用可" の割り込みリソースのうち、いずれか 1 つを使用します。

イーサネットが標準装備の場合、さらに "使用可" の割り込みリソースのうち、いずれか 1 つを使用します。

オーディオ・アダプターが標準装備の場合、さらに "使用可" の割り込みリソースのうち、いずれか 2 つを使用します。

(注) USB、イーサネット、オーディオ・アダプターが標準装備のモデルでは、割り込みリソースは全て使用済となるので、アダプターを追加する場合は、いずれかのデバイスを使用不可とする必要があります。

<sup>6</sup> 設定値を変更するよう修正したり、使用不可にしたりできます。

表 5. DMA リソース

DMA 要求	データ幅	システム・リソース
0	8 ビット	使用可
1	8 ビット	使用可
2 <sup>7</sup>	8 ビット	ディスケット
3 <sup>7</sup>	8 ビット	パラレル・ポート <sup>8</sup>
4	-	予約済み
5	16 ビット	使用可
6	16 ビット	使用可
7	16 ビット	使用可

オーディオ・アダプターが標準装備の場合、上記 "使用可" の DMA リソースのうち、いずれか 2 つを使用します。

<sup>7</sup> 設定値を変更するよう修正したり、使用不可にしたりできます。

<sup>8</sup> ECP モードまたは ECP/EPP モードのどちらかを選択している場合には、これが省略時値です。



# 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## 〔ア行〕

### アダプター

- エラー・メッセージ 67
- 構成 71
- 従来型 28
- スロット 26
- タイプ 27
- 取付け 29
- 取外し 33
- プラグ・アンド・プレイ 27
- リソースの競合 27, 28, 67

### アダプター用拡張スロット 26

### アップグレード

- システム・メモリー 10
- ビデオ・メモリー 15
- マイクロプロセッサ 20
- L2 キャッシュ 18

### 安全

- 手順と指針 1
- 電気に関する 3

### 安全上の注意、電池 72

### 位置決め

- アダプター 26
- 拡張スロット 26
- システム・ボード構成部品 7
- ドライブ・ベイ 37
- 内部構成部品 6

### エラー・メッセージ、リソースの競合 27, 67

### オプション

- アダプター 27
- 機密保護 58
- システム・メモリー 10
- 使用可能な 2
- 説明 1

### オプション (続き)

- 内蔵ドライブ 37, 38
- ビデオ・メモリー 15
- マイクロプロセッサ 20
- L2 キャッシュ 18

## 〔カ行〕

### 書込み禁止スイッチ、の設定 62

### カバー

- 再取付け 65
- 取外し 5
- ロック 2

### キーボード・ポート 8

### 機密保護オプション 58

### 機密保護用の u ボルト 2

### 切替え設定

- システム・ボード上の位置 7
- ディスク書き込み禁止スイッチ 62

### ケーブル

- 接続 66
- 電気に関する安全上の注意 3
- 取外し 5
- 内蔵ドライブのタイプ 38
- IDE 38

### 交換

- カバー 65
- 電池 72
- 交換用電池、の注文 72
- 構成

- アダプター 27, 67
- 競合の解決 67
- システム・メモリー 10
- 情報の消去 59
- 装置、の更新 67

### 構成部品、内部の位置 6

### 固定ディスク・ドライブ 37, 38

コネクタ  
システム・ボード上の 7  
入出力 8

**〔サ行〕**

システム・ボード  
オプション 9  
構成部品 2  
説明 7  
パーツの識別 7  
レイアウト 7  
システム・ボード・パーツの識別 7  
システム・メモリー  
構成 10  
最大容量 10  
増設 10  
目的 10  
モジュールの取付け 10  
モジュールの取外し 13  
ジャンパー  
システム・ボード上の位置 7  
CMOS クリアー 59  
従来型 ISA リソース 27  
従来型アダプター 28, 71  
従来型の ISA リソース 67  
商標 77  
シリアル・ポート 8  
スロット  
アダプター 29, 31  
拡張 29, 31  
拡張 ISA/PCI 26  
静電気の影響を受けやすい装置、取扱い 4  
接続  
ケーブル、外部 66  
内蔵ドライブ 38  
入出力装置 8  
増設  
アダプター 29  
システム・メモリー 10  
モデル 6272 への 3.5 インチ内蔵ドライブの  
取付け 41

増設 (続き)  
モデル 6272 への 5.25 インチ内蔵ドライブの  
取付け 47  
モデル 6282 への内蔵ドライブ 51  
装置  
静電気の影響を受けやすいものの取扱い 4  
装置構成の更新 67  
装置構成クーティリティー  
開始 68  
従来型 ISA リソース 27  
従来型の ISA リソース 67  
終了 70  
使用法 67  
設定の変更 70  
メイン・メニュー 69  
目的 67  
リソースの競合 27, 67

## 〔タ行〕

ダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソ  
ース 76  
注意  
静電気の影響を受けやすい装置の取扱い 4  
電気に関する安全 3  
電池の取扱い 72  
テープ・ドライブ 37, 38  
ディスク・ドライブ、ハード 37, 38  
ディスクケット書込み禁止スイッチ 62  
ディスクケット・ドライブ 37, 38  
デバイス・ドライバー 67  
電圧レギュレーター・モジュール (VRM)、の位  
置 7  
電源コード  
接続 66  
取外し 5  
内蔵ドライブ 38  
電源コネクタ (内蔵)、の位置 7  
電池  
安全上の注意 72  
交換 72  
交換用電池の注文 72

## 電池 (続き)

- システム・ボード上の位置 7
- 取扱い上の注意 72
- 廃棄 72
- リチウム電池に関する注意 72

## 電池の廃棄 72

## 特記事項 77

## ドライブ

- ケーブル 38
- 仕様 38
- ベイ 37
- 参照：内蔵ドライブ

## 取扱い方法

- 静電気の影響を受けやすい装置 4
- 電池 72

## 取付け

- アダプター 29
- オプション 2
- 概要 1
- カバー 65
- システム・メモリー 10
- 静電気の影響を受けやすい装置 4
- 電気に関する安全上の注意 3
- 電池 74
- ビデオ・メモリー 15
- マイクロプロセッサ・アップグレード 20
- モデル 6272 への 3.5 インチ内蔵ドライブの取付け 41
- モデル 6272 への 5.25 インチ内蔵ドライブの取付け 47
- モデル 6282 へのドライブの取付け 51
- L2 キャッシュ 18

## 取付け準備 5

## 取付けの完了 63

## 取外し

- アダプター 33
- 安全 3
- カバー 5
- 管理者パスワード 59
- ケーブル、外付け 5
- システム・メモリー 13

## 取外し (続き)

- 始動パスワード 59
- 電池 74
- ベイ・パネル 64
- モデル 6272 からの 5.25 インチ・ドライブ 49
- モデル 6282 からの 3.5 インチ・ドライブ取付け金具 51
- モデル 6282 からの内蔵ドライブ 55

## 〔ナ行〕

### 内蔵ドライブ

- オプション 37, 38
- ケーブル 38
- 説明 37
- タイプ 37, 38
- 高さの要件 38
- ベイ 37, 38
- モデル 6272 からの 5.25 インチ・ドライブの取外し 49
- モデル 6272 への 3.5 インチの取付け 41
- モデル 6272 への 5.25 インチの取付け 47
- モデル 6282 からの取外し 55
- モデル 6282 への取付け 51

### 内蔵ドライブ用の信号ケーブル 38

## 〔ハ行〕

- ハード・ディスク・ドライブ 37, 38
- パスワード  
除去 59
- パラレル・ポート 8
- 必要なツール 2
- ビデオ・ポート 8
- ビデオ・メモリー  
モジュールの取付け 15
- ファン・コネクタ (2 つ目のマイクロプロセッサ用)、の位置 7
- プラグ・アンド・プレイ  
アダプター 27

プレーナー

参照：システム・ボード

フロア・スタンド 2

プロセッサ

参照：マイクロプロセッサ

フロッピー・ドライブ・コネクタ、の位置 7

ベイ、ドライブ 37

ベイ・パネル、の取外し 64

ポート 5, 66

## 〔マ行〕

マイクロプロセッサ

アップグレード 20

システム・ボード上の位置 7

マウス・ポート 8

マザーボード

参照：システム・ボード

モジュール

システム・ボード上の位置 7

システム・メモリー 10

取付け、システム・メモリーの 10

ビデオ・メモリー 15

L2 キャッシュ 18

モニター・コネクタ 8

## 〔ヤ行〕

ユーティリティ・プログラム、のセットアップ

67

## 〔ラ行〕

ライザー・カード

拡張スロット 26

システム・ボード上の位置 7

ISA スロット 26

PCI スロット 26

リソースの競合 25, 67

リソースの競合、エラー・メッセージ 27

リボン・ケーブル 38

## 〔ワ行〕

わからなくなった始動パスワード、の除去 59

割込みリソース 75

## C

CD-ROM ドライブ 37, 38

CMOS のクリアー 59

## D

DMA (ダイレクト・メモリー・アクセス) リソース 76

## I

IDE 装置

接続 38

1 次コネクタ 7

2 次コネクタ 7

ISA スロット 26

## L

L2 キャッシュ・メモリー

モジュールの取付け 18

## P

PCI スロット 26

## U

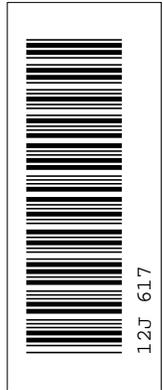
USB ポート 8

## W

Wake on LAN コネクタ 7

部品番号: 12J0617

Printed in Japan



**日本アイビーエム株式会社**

東京都港区六本木 3-2-12 〒106  
TEL (03) 3586-1111



SA88-586 -